

BZ-1-1



1200600136590

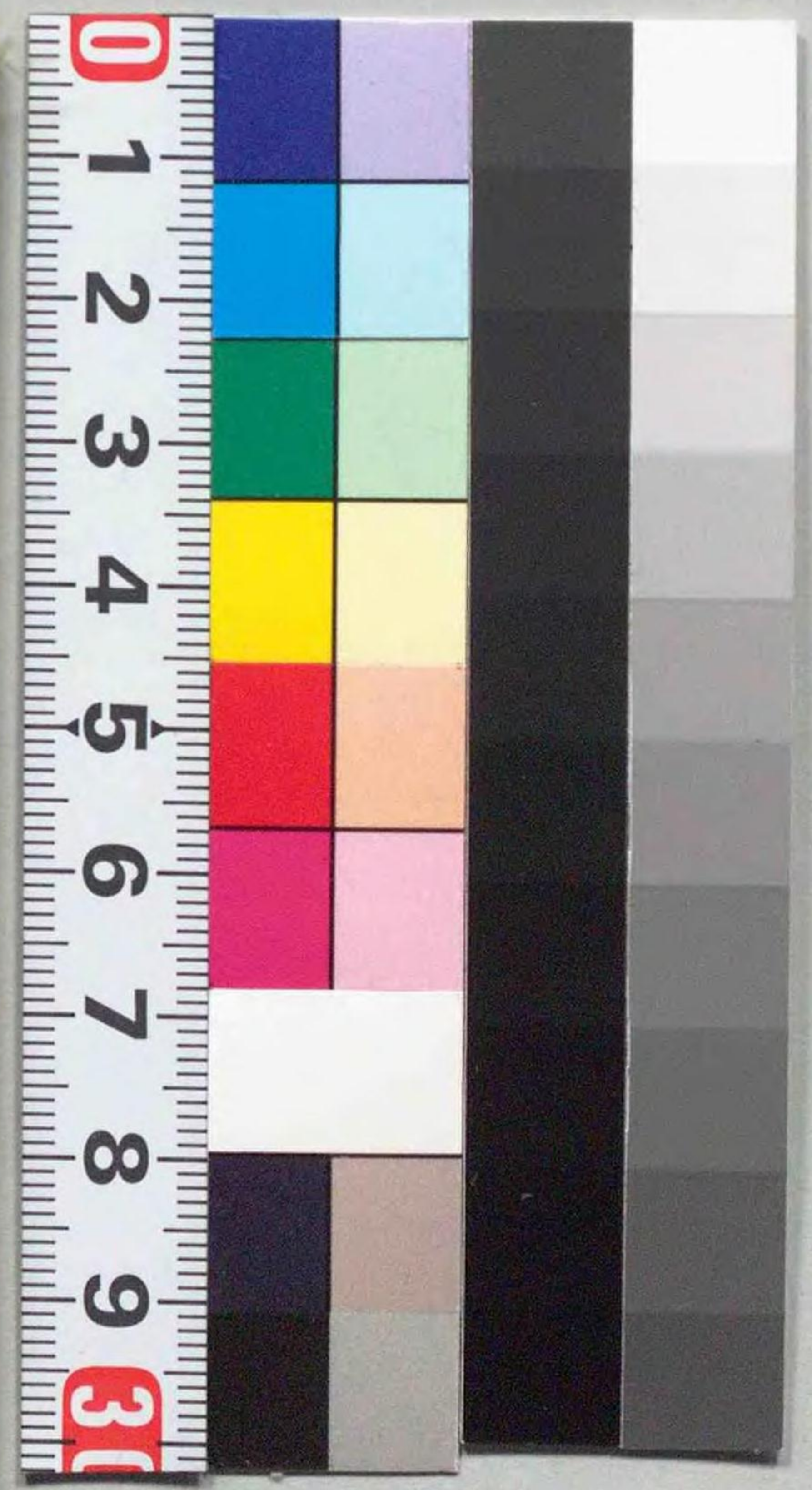
貴族院要覽

大正四年五月增訂

第八號



(甲)



消

印

国立国会
41.6.23
図書館分館



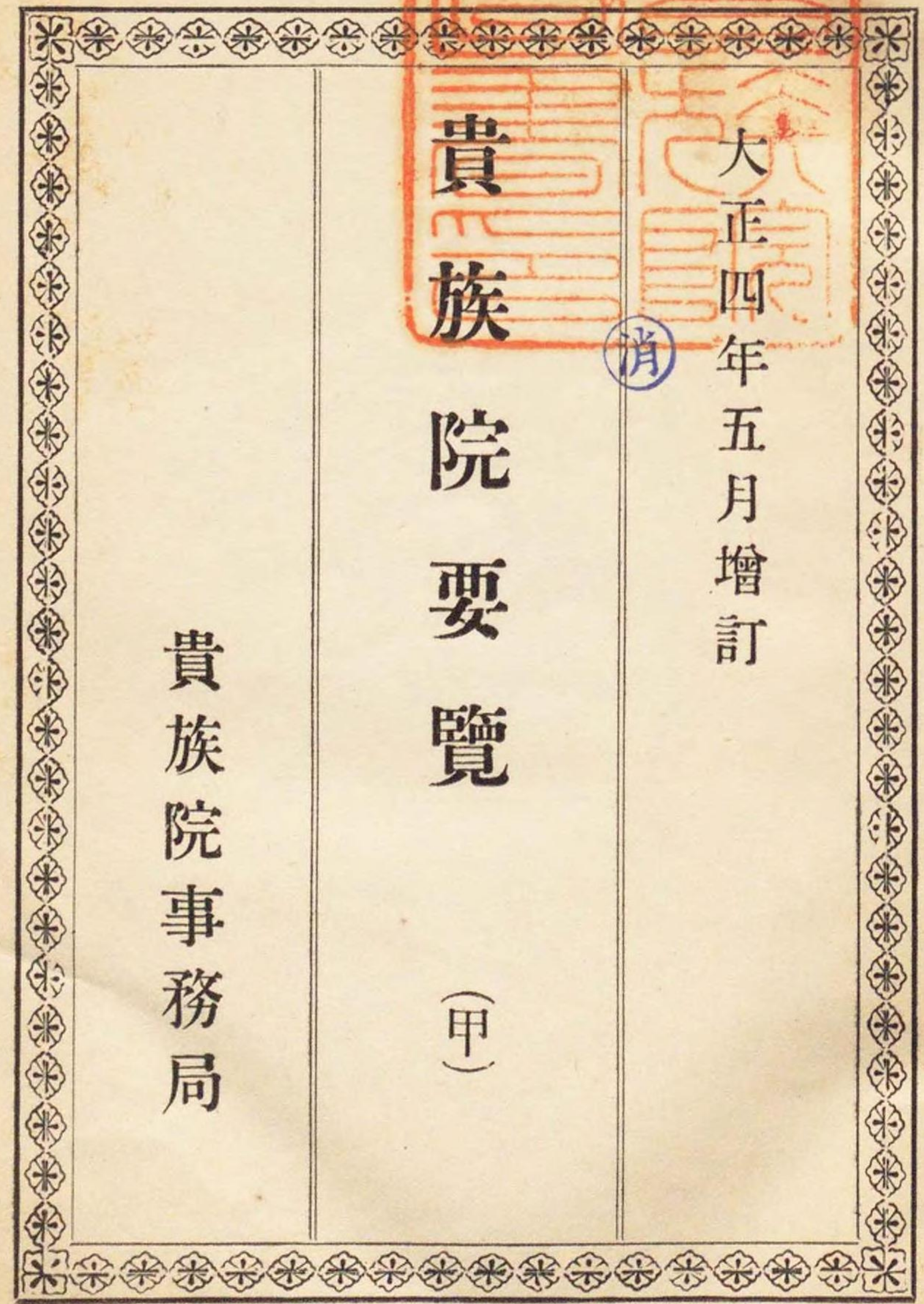
大正四年五月增訂

消

貴族院要覽

(甲)

貴族院事務局



BZ
1
1



I 種
W



1200600136590

貴族院要覽(甲)

凡例

- 一本書ハ主トシテ貴族院ニ關スル法令、事務局竝ニ議院建築ニ關スル事項ノ大要ヲ輯録シタルモノナリ
- 一法令ハ大正四年五月十日ノ現在ニ依リテ之ヲ輯録ス
- 一貴族院議事法規索引ハ諸法規中ヨリ貴族院ノ議事ニ關スル事項ヲ搜出スルニ便ナラシメムカ爲特ニ編纂シタルモノナリ

大正四年五月

貴族院事務局

凡例

一

貴族院要覽(甲)

第一編 法令

(消)

○五箇條ノ御誓文

○立憲政體ノ詔書

○國會開設ノ勅諭

○憲法發布ノ勅語

○大日本帝國憲法

第一章 天皇

第二章 臣民權利義務

第三章 帝國議會

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五章 司法

第六章 會計

第七章 補則

目次

目次

五箇條ノ御誓文	一	一	頁
立憲政體ノ詔書	一	一	頁
國會開設ノ勅諭	二	二	頁
憲法發布ノ勅語	二	二	頁
大日本帝國憲法	二	二	頁
第一章 天皇	四	四	頁
第二章 臣民權利義務	五	五	頁
第三章 帝國議會	七	七	頁
第四章 國務大臣及樞密顧問	十	十	頁
第五章 司法	十	十	頁
第六章 會計	十	十	頁
第七章 補則	十	十	頁

貴族院要覽

目次

○議院法

第一章	帝國議會ノ召集成立及開會	十四頁
第二章	議長書記官及經費	十五頁
第三章	議長副議長及議員歲費	十六頁
第四章	委員	十七頁
第五章	會議	十八頁
第六章	停會閉會	十九頁
第七章	祕密會議	二十頁
第八章	豫算案ノ議定	二十一頁
第九章	國務大臣及政府委員	二十一頁
第十章	質問	二十一頁
第十一章	上奏及建議	二十二頁
第十二章	兩議院關係	二十二頁
第十三章	請願	二十四頁
第十四章	議院ト人民及官廳地方議會トノ關係	二十六頁
第十五章	退職及議員資格ノ異議	二十六頁
第十六章	請暇辭職及補闕	二十七頁

○	第十七章	紀律及警察	二十八頁
○	第十八章	懲罰	二十九頁

○	貴族院令	三十頁
○	貴族院規則	三十一頁

○	第一章	成立	三十三頁
○	第二章	委員	三十四頁
○	第一節	通則	三十四頁
○	第二節	全院委員	三十五頁
○	第三節	常任委員	三十七頁
○	第四節	特別委員	四十頁
○	第三章	開議散會及延會	四十一頁
○	第四章	議事日程	四十二頁
○	第五章	議事	四十三頁
○	第一節	發議及動議	四十三頁
○	第二節	讀會	四十三頁
○	第三節	討論	四十五頁
○	第四節	修正	四十九頁

第五節 表決……………五十二頁

第六節 豫算會議……………五十二頁

第六章 議事錄及速記録……………五十二頁

第一節 議事錄……………五十二頁

第二節 速記録……………五十三頁

第七章 上奏建議及議案ノ奏上……………五十四頁

第八章 請願……………五十五頁

第九章 請暇及辭職……………五十六頁

第一節 請暇……………五十七頁

第二節 辭職……………五十七頁

第十章 警察及秩序……………五十八頁

第一節 警察……………五十八頁

第二節 議場内ノ秩序……………五十八頁

第十一章 傍聽……………五十九頁

第十二章 懲罰……………六十一頁

第十三章 衆議院トノ關係……………六十三頁

○豫算案議定細則……………六十四頁

○決算議定細則……………六十六頁

○兩院協議會規程……………六十八頁

○貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則……………六十九頁

○貴族院伯子男爵議員選舉規則……………七十二頁

○貴族院多額納稅者議員互選規則……………七十五頁

○貴族院令並貴族院伯子男爵議員選舉規則及貴族院多額納稅者議員互選規則施行ノ詔書……………七十九頁

○貴族院伯子男爵議員選舉人員ニ關スル詔書附同選舉人員沿革表……………八十一頁

○貴族院伯子男爵議員選舉規程……………八十一頁

○貴族院伯子男爵議員選舉規程ニ關ル書式……………八十七頁

○貴族院多額納稅者議員補闕選舉ニ關スル件……………九十三頁

○貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方……………九十三頁

○議會並議員保護ノ件……………九十四頁

○衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目ノ件……………九十五頁

○貴族院議員ノ選舉ニ應シタル者ハ宮内省中兼職ヲ……………九十五頁

得サル部局指定……………九十六頁

○帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則……………九十七頁

●參考

○皇室典範……………百一頁

○皇室典範增補……………百八頁

○公式令……………百九頁

○衆議院規則……………百十五頁

○法律ノ制定ニ關スル請願取扱規則(衆議院)……………百五十一頁

○投票ニ關スル規則(衆議院)……………百五十一頁

○衆議院議員選舉法……………百五十一頁

○衆議院議員選舉法施行令……………百七十九頁

○會計法……………百八十四頁

○會計法補則……………百九十頁

○會計規則……………百九十二頁

○官有財産管理規則……………二百一十一頁

第二編 附錄

○貴族院事務局官制……………二百十五頁

○貴族院事務局分課規程……………二百十六頁

○圖書借覽規則……………二百十七頁

○貴族院所藏圖書數……………二百十九頁

○議事堂……………二百十九頁

○議場及各室……………二百二十二頁

○廣島臨時議會議事堂……………二百二十二頁

貴族院議事法規索引

目次終

貴族院要覽

(甲)

第一編 法令

○五箇條ノ御誓文

(明治元年三月十四日)

- 一 廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ
 - 一 上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ
 - 一 官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス
 - 一 舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ
 - 一 智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ
- 我國未曾有ノ變革ヲ爲ントシ 朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ

○立憲政體ノ詔書

(明治八年四月十四日)

朕即位ノ初首トシテ 群臣ヲ會シ五事ヲ以テ神明ニ誓ヒ 國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ求ム幸ニ祖宗ノ靈ト群臣ノ力トニ頼リ以テ今日ノ小康ヲ得タリ 顧ニ中興日淺ク内事ノ事當ニ振作更張スヘキ者少シトセス 朕今誓文ノ意ヲ擴充シ茲ニ元老院ヲ設ケ以テ立法ノ源ヲ廣メ大審院ヲ置キ以テ審判ノ權ヲ鞏クシ又地方官ヲ召集シ以テ民情ヲ通シ公益ヲ圖リ漸次ニ國家立憲ノ政體ヲ立テ汝衆庶ト俱ニ其慶ニ頼ント欲ス汝衆庶或ハ舊ニ泥ミ故ニ慣ル、コト莫ク又或ハ進ムニ輕ク爲スニ急ナルコト莫ク其レ能朕カ旨ヲ體シテ翼贊スル所アレ

○國會開設ノ勅諭(明治十四年十月十二日)

朕祖宗二千五百有餘年ノ鴻緒ヲ嗣キ、中古紐ヲ解クノ乾綱ヲ振張シ、大政ノ統一ヲ總攬シ、又夙ニ立憲ノ政體ヲ建テ、後世子孫繼クヘキノ業ヲ爲サンコトヲ期ス、嚮ニ明治八年ニ、元老院ヲ設ケ、十一年ニ、府縣會ヲ開カシム、此レ皆漸次基ヲ創メ、序ニ循テ歩ヲ進ムルノ道ニ由ルニ非サルハ莫シ、爾有衆、亦朕カ心ヲ諒トセン

顧ミルニ、立國ノ體、國各宜キヲ殊ニス、非常ノ事業、實ニ輕舉ニ便ナラス、我祖我宗、照臨シテ上ニ在リ、遺烈ヲ揚ケ、洪模ヲ弘メ、古今ヲ變通シ、斷シテ之ヲ行フ、責朕カ躬ニ在リ、將ニ明治二十三年ヲ期シ、議員ヲ召シ、國會ヲ開キ、以テ朕カ初志ヲ成サントス、今在廷臣僚ニ命シ、假スニ時日ヲ以テシ、經畫ノ責ニ當ラシム、其組織權限ニ至テハ、朕親ラ衷ヲ裁シ、時ニ及テ公布スル所アラントス

朕惟フニ、人心進ムニ偏シテ、時會速ナルヲ競フ、浮言相動カシ、竟ニ大計ヲ遺ル、是レ宜シク今ニ及テ、謨訓ヲ明徵シ、以テ朝野臣民ニ公示スヘシ、若シ仍ホ故サラニ躁急ヲ爭ヒ、事變ヲ煽シ、國安ヲ害スル者アラハ、處スルニ國典ヲ以テスヘシ、特ニ茲ニ言明シ、爾有衆ニ諭ス

○憲法發布ノ勅語(明治二十二年二月十一日)

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ、朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス

惟フニ我カ祖我カ宗ハ、我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ、以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威德ト竝ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ、朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ、其ノ朕カ意

ヲ奉體シ、朕カ事ヲ獎勵シ相與ニ和衷協同シ益々我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ、祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿德良能ヲ發達セシムコトヲ願ヒ、又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ、乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ、朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ、朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ、此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有效ナラシムルノ期トスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必用ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼續ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

○大日本帝國憲法

第一章 天皇

- 第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
- 第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス
- 第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
- 第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
- 第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ
- 第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス
- 第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス
- 第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス
- 此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

- 第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス
- 第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其ノ條項ニ依ル
- 第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス
- 第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム
- 第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス
- 第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス
- 戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス
- 第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス
- 第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル
- 攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラル、コトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ祕密ヲ侵サル、コトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、コトナシ

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル

限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り軍人ニ準行ス

第二章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ 及各々法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條 帝國議會ハ每年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ祕密會ト爲スコトヲ得

第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲クルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ際ク外會

期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、コトナシ
第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ補弼シ其ノ責ニ任ス
凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス
第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ
裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス
裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラル、コトナシ
懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停止ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ
第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之

ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其ノ總員二分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用非タルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵守ノ効力ヲ有ス
歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

○議院法(明治二十二年二月法律第二二號)

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ
第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ
第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ
議長副議長ノ勅任セララルマテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ
第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ
第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各一員トス
第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル
第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル
第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス
第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス
第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス
第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス
第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ
第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラ

ル、マテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第二章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ五千圓副議長ハ三千圓貴族院ノ被

選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ二千圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從

ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス(明治三

十二年四月十九日改正)

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得(同上)

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日

五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル

爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニ在

ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クル

モノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條 全院委員會ハ議員三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ

其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得

ス

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會

ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ
第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ
間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ
場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求
若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多
數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決
スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限
ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動
議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ
得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回ス
ルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經
由シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタ
ルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モ
ノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スル
コトヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ
前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサル
モノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラ

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 祕密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ祕密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用弗スシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 祕密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取りタル日ヨリ二十一日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ(明治三十九年五月七日改正)

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラス

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ毎回委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サ、ルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニ

スルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各々十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議ジ次ニ乙議院ニ移スヘシ
協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用非可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各々一員ヲ互選シ毎會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十二章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用非政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用非ルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ關預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相關預セス

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會

トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ祕密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委

員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラレ、ニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章 請暇辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請暇ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ內務大臣ニ通牒シ補闕選舉ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

第九十條 傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得
第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用非ルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

- 一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス
- 二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム
- 三 一定ノ時間出席ヲ停止ス

四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

○貴族院令(明治二十二年二月勅令第十一號)

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯爵

三 伯子男爵各々其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者

四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

第四條 伯子男爵ヲ有スルモノニシテ滿二十五歳ニ達シ各々其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

第六條 前項議員ノ數ハ百二十五人ヲ超過スヘカラス(明治三十八年三月二十日追加)

第七條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ

勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラルヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間

其ノ職ニ就クヘシ

第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

○貴族院規則(明治二十三年十月一日議決)

第一章 成立(明治二十四年二月二十七日追加)

第一條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時貴族院ニ集會スヘシ

第二條 集會シタル議員ハ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ

第三條 集會シタル議員總議員三分ノ一以上ニ充チタルトキハ議長ハ議長ニ著クヘシ

第四條 議員ノ席次ハ皇族ヲ首席トシ其ノ席次ハ宮中ノ列次ニ依ル爵位ヲ有スル議員ヲ次席トシ其ノ席次ハ爵位次第二依ル其ノ他ノ議員ノ席次ハ年齡ニ依リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 議長ハ書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ヲ九部ニ配分シ各部ニ號數ヲ附ス

均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下毎部一員ヲ加フヘシ
議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

第六條 部屬ハ每會期ニ之ヲ定ム

臨時會ニ於テハ前會ノ部屬ヲ繼續スヘシ

第七條 各部ハ年長部員ヲ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一
名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

最多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルト
キハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第八條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第九條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス

理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第十條 理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ

第十一條 部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由ヲ政府及衆議院ニ
通報スヘシ

第二章 委員

第一節 通則

第十二條 委員會ノ審査ハ議院ノ付託シタル事件ノ外ニ涉ルコトヲ得ス

第十三條 委員ハ委員會ニ於テ同一事件ニ付キ幾回タリトモ發言スルコ
トヲ得

第十四條 委員長ハ委員會ノ會議ヲ整理シ秩序ヲ保持ス

第十五條 委員會ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキ

ハ委員長ノ決スル所ニ依ル

委員長ハ討議スルノ權ヲ妨ケラル、コトナシ

第一節 全院委員

第十六條 全院委員長ノ選舉ハ無名投票ヲ以テ之ヲ行ヒ最多數ヲ得タル
者ヲ以テ當選人トス同數者アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽
籤ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 全院委員長故障アルトキハ第一部長ヲシテ其ノ職務ヲ行ハシ
ムヘシ第一部長亦故障アルトキハ順次ニ第二部長以下ヲシテ之ヲ行ハ
シムヘシ

第十八條 全院委員會ハ議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ討論ヲ用井
ス議院ノ決議ヲ以テ之ヲ開ク

第十九條 全院委員會ヲ開クコトヲ議決シタルトキハ即時ニ開會スヘシ

即時ニ開會セサルノ議決ヲ爲シタルトキハ議長ハ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ

第二十條 全院委員會ヲ開クトキハ議長其ノ席ヲ退クヘシ
委員長ノ席ハ書記官長ノ席ヲ以テ之ニ充ツ

第二十一條 全院委員會ニ於ケル動議ハ一人以上ノ贊成者ヲ待チテ議題トナスヘシ

第二十二條 全院委員會ハ自ラ其ノ規則ヲ議決スルコトヲ得ス

第二十三條 全院委員會議事ヲ終ルトキハ委員長ハ議長ノ出席ヲ求メ其ノ結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十四條 全院委員會ハ自ラ延會スルコトヲ得ス若シ議事終局セサルトキハ委員長ハ議長ノ出席ヲ求メ議事ノ經過ヲ議院ニ報告スヘシ

此ノ場合ニ於テハ議長ハ更ニ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ
第二十五條 全院委員會ニ於テ議院法若ハ議院規則ニ違ヒ議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ議長ハ委員長ノ請求ヲ待タス其ノ席ニ復シ委員會ヲ解クコトヲ得

解クコトヲ得

第二十六條 全院委員會ノ議決スルコトヲ得サル事件生スルトキハ委員長ハ議長ノ出席ヲ求メ其ノ席ヲ退クヘシ

第二十七條 全院委員會ニ於テハ書記官書記官長ノ職務ヲ行フ

第三節 常任委員

第二十八條 議院ハ每會期ノ始ニ於テ左ニ列記スル常任委員ヲ選舉ス

- 一 資格審査委員 九人
- 二 豫算委員 六十三人(明治四十年三月二十一日、大正二年三月二十六日改正)
- 三 懲罰委員 九人
- 四 請願委員 三十六人(明治四十三年三月十日改正)
- 五 決算委員 三十六人(明治二十七年五月二十二日追加、四十年三月二十一日改正)

其ノ他議院ニ於テ必要ト認ムルモノ

第二十九條 常任委員ハ各部ニ於テ無名投票ヲ以テ議員中ヨリ選舉シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス同數者アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 各常任委員ヲ選舉スルハ議院ノ命スル所ニ依リ各部同一日時ニ於テスヘシ

第三十一條 當選人定マリタルトキハ部長ハ之ヲ議長ニ報告スヘシ

第三十二條 數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ其ノ所屬部ノ當選人トス

所屬部ノ外ニ於テ數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ部號ノ順序ニ從ヒ其ノ當選人トス

第三十三條 前條又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ其ノ選舉シタル部ニ於テ補闕選舉ヲ行フヘシ

第三十四條 常任委員ニ選舉セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ任ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十五條 常任委員會ハ無名投票ヲ以テ委員長副委員長各一名ヲ互選シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス同數者アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

委員長故障アルトキハ副委員長之ヲ代理スヘシ

第三十六條 議院ニ於テ委員會ノ期日ヲ指定セサルトキハ委員長之ヲ定ム

第三十七條 常任委員會ハ議院ノ會議時間ニ於テ之ヲ開クコトヲ得ス但シ議院ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 常任委員會ハ其ノ付託ヲ受ケタル事件ニ關シ意見ヲ有スル

議員アルトキハ其ノ意見ヲ聞クコトヲ得

第三十九條 常任委員會ノ審査終ルトキハ報告書ヲ作り委員長ヨリ議院ニ提出スヘシ

常任委員會ノ決議ニ依リ委員長ハ口述ヲ以テ報告スルコトヲ得但シ議院ハ文書ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

常任委員長ハ委員會ノ決議ヲ經テ其ノ報告ヲ他ノ委員ニ依託スルコトヲ得

議長ニ於テ特ニ祕密ト認ムル者ノ外委員會ノ報告書ハ印刷シテ豫メ之ヲ議員ニ配付スヘシ

第四十條 議院ハ期限ヲ定メ委員會ヲシテ審査ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十一條 常任委員會故ナク其ノ報告ヲ遲延スルトキハ議院ハ委員ヲ改選スルコトヲ得

第四十二條 常任委員會ニ於テ少數ヲ以テ廢棄セラレタル意見ヲ議院ニ提出セムト欲スル者出席委員三分ノ一ニ及フトキハ委員會ノ報告ト俱ニ其ノ意見ヲ提出スルコトヲ得

第四十三條 常任委員會ハ委員會議錄ヲ作り出席者ノ氏名表決ノ數決議

ノ要領及其ノ他重要ノ事件ヲ記載スヘシ

第四十四條 常任委員會議録ハ委員長及副委員長之ニ署名捺印シ事務局ニ保存スヘシ

第四十五條 常任委員ハ其ノ事務ヲ捷速ナラシムル爲ニ分テ數科ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各科ニ主査ヲ互選スヘシ各科ノ主査ハ議院ニ於テ委員長ノ報告ヲ補助スルコトヲ得

第四節 特別委員

第四十六條 特別委員ノ數ハ九名トス但シ付託事件ノ種類ニ由リ議院ノ決議ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得

第四十七條 特別委員ハ議院ニ於テ無名投票ヲ以テ連記選舉シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス同數者アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム議院ハ特別委員ノ選舉ヲ議長又ハ各部ニ委任スルコトヲ得(明治二十四年十二月四日改正)

第四十八條 議院ハ特別委員ニ付託シタル事件ニ連繫スル他ノ事件ヲ以テ併セテ之ニ付託スルコトヲ得

第四十九條 議院ハ特別委員ノ報告ヲ受クルノ後更ニ其ノ事件ヲ同一委員ニ付託シ又ハ委員ヲ改選シテ之ニ付託スルコトヲ得

第二章 開議散會及延會

第五十一條 會議ハ通常午前十時ニ始ム

第五十二條 議事日程ニ掲ケタル議事ヲ終リタルトキハ議長ハ議院ニ諮ハスシテ散會ヲ宣告ス議事未タ終ラサルモ午後四時ニ至ルトキハ議長ハ延會ヲ宣告スルコトヲ得但シ緊急ノ議事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 議事開始ノ時刻ニ至ルトキハ議長其ノ席ニ著キ諸般ノ通信ヲ報告シテ後ニ會議ヲ開クコトヲ宣告ス

議長開議ヲ宣告セサル間ハ何人モ議事ニ付キ發言スルコトヲ得ス

第五十四條 出席議員若シ定足數ニ充タサルトキハ議長ハ相當ノ時間ヲ經テ之ヲ計算セシメ計算二回ニ至リ仍定足數ニ充タサルトキハ延會ヲ宣告スヘシ

會議中退席者アリテ定足數ヲ闕キタルトキ亦同シ

第五十五條 議長散會又ハ延會ヲ宣告シタル後ハ何人モ議事ニ付キ發言

スルコトヲ得ス

第四章 議事日程

第五十六條 凡テ議院ノ會議ニ付スヘキ事件及次序並ニ開議ノ日時ハ之ヲ議事日程ニ記載スヘシ

第五十七條 議長ハ會議ノ終ニ於テ次會ノ議事日程ヲ議院ニ報告スヘシ

第五十八條 議事日程ハ官報ニ掲載シ及議員ニ配付スヘシ

第五十九條 議事日程ニ某議案ノ會議時刻ヲ定メタル場合ニ於テ其ノ時刻ニ至リタルトキハ議長ハ會議中ノ議事ヲ中止シテ時刻ヲ定メタル事件ノ會議ニ移ルヘシ

第六十條 議事日程ニ記載シタル事件アルニ拘ラス他ノ緊急事件ニ付キ開議ノ動議ヲ起ス者アルトキ又ハ議長自ラ緊急事件ト認ムルトキハ討論ヲ用井スシテ議院ニ諮ヒ議事日程ヲ變更スルコトヲ得

第六十一條 議事日程ニ指定シタル日ニ於テ其ノ記載事件ノ會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ會議終局ニ至ラサルトキハ議長ハ更ニ其ノ日程ヲ定ムヘシ

第六十二條 衆議院ニ於テ既ニ會議ニ付シタル議案ト同一ナル事件ハ之

ヲ議事日程ニ記載スルコトヲ得ス但シ兩議院ノ議決ヲ要セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條 衆議院ヨリ提出シタル議案ハ政府ヨリ提出シタル議案ニ次

第五章 議事

第一節 發議及動議

第六十四條 議員法律案又ハ上奏案建議案ヲ發議セムトスル者ハ其ノ案ヲ具ヘ理由ヲ付シ定規ノ贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ差出シ議長ハ印刷シテ之ヲ各議員ニ配付スヘシ

第六十五條 議院法及此ノ規則ニ於テ特ニ規定シタル場合ヲ除ク外凡ソ動議ハ一人以上ノ贊成者ヲ待チテ議題ト爲スヘシ

第一節 讀會

第六十六條 第一讀會ハ議案ヲ各議員ニ配付シタル後少クトモ二日ヲ經テ之ヲ開クヘシ但シ緊急事件ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十七條 第一讀會ニ於テ議案ヲ朗讀シタル後國務大臣政府委員又ハ

發議者ハ其ノ趣旨ヲ辯明スルコトヲ得

議長ハ便宜議案ノ朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第六十八條 前條ノ手續ヲ終リタルトキハ政府又ハ衆議院ヨリ提出シタル議案ハ之ヲ委員ニ付託スヘシ

議院ハ委員ノ報告ヲ待チ大體ニ付キ討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキ

ヤ否ヲ決スヘシ

議員ヨリ提出シタル議案ハ大體ニ付キ討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキ

キヤ否ヲ決スヘシ若シ委員ニ付託スルノ動議アリテ之ヲ可決シタルト

キハ其ノ報告ヲ待チ第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ

第二讀會ヲ開クヘカラスト決シタルトキハ其ノ議案ヲ廢棄シタルモノ

トス

第六十九條 第二讀會ハ第一讀會ヲ終リタル後少クトモ二日ヲ經テ之ヲ

開クヘシ但シ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第一讀會ト同日ニ之

ヲ開クコトヲ得

第七十條 第二讀會ニ於テハ議案ヲ逐條朗讀シテ之ヲ議決スヘシ

議長ハ便宜朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第七十一條 第二讀會ニ於テハ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ提出スルコトヲ

得

議員ハ讀會ノ前豫メ修正案ヲ議長ニ提出スルコトヲ得

第七十二條 委員ノ報告ニ係ル修正ハ贊成ヲ待タスシテ議題トナスヘシ

第七十三條 議長ハ逐條審議ノ順序ヲ變更シ又ハ數條ヲ連ネ又ハ一條ヲ

分割シテ討論ニ付スルコトヲ得但シ議員異議ヲ提出スル者アルトキハ

其ノ贊成者アルヲ待チ討論ヲ用弗スシテ議院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第七十四條 第三讀會ニ於テハ第二讀會ノ決議ヲ以テ議案トス

議長ハ便宜朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第七十五條 第三讀會ハ第二讀會ノ後少クトモ二日ヲ經テ之ヲ開クヘシ

但シ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第二讀會ト同日ニ之ヲ開クコ

トヲ得

第七十六條 第三讀會ニ於テハ議案全體ノ可否ヲ議決スヘシ

第七十七條 第三讀會ニ於テハ文字ヲ更正スルノ外修正ノ動議ヲ爲スコ

トヲ得ス但シ議案中互ニ牴觸スル事項又ハ現行法律ト牴觸スル事項ア

ルコトヲ發見シタルトキ必要ノ修正ヲ動議スルハ此ノ限ニ在ラス

第三節 討論

第七十八條 議事日程ニ記載シタル議題ニ對シ發言セムト欲スル者ハ會議開始ノ前ニ豫メ其ノ氏名及反對又ハ贊成ノ旨ヲ書記官ニ通告スルコトヲ得

第七十九條 書記官ハ前條通告ノ順序ニ由リ之ヲ發言表ニ記入シ議長ニ報告スヘシ議長ハ討論ヲ始ムルニ當リ發言表ニ依リ反對者ヲシテ最初ニ發言セシメ次ニ贊成者及反對者ヲ可成交互ニ指名シテ發言セシムヘシ

前項ノ指名ニ應セサル者ハ通告ノ效ヲ失フ
第八十條 通告ヲ爲サ、ル議員ハ通告ヲ爲シタル議員總テ發言ヲ終リタル後ニアラサレハ發言ヲ求ムルコトヲ得ス

通告ヲ爲シタル甲方ノ議員未ダ發言ヲ終ラスト雖乙方ノ議員既ニ發言ヲ終リタルトキハ通告ヲ爲サ、ル乙方ノ議員發言ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條 通告ヲ爲サシテ發言セムト欲スル者ハ起立シテ議長ト呼ビ及自己ノ氏名ヲ呼ビ議長ノ許可ヲ待テ發言スヘシ

第八十二條 二人以上起立シテ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ先起立者ト認ムル者ヲ指シテ發言セシムヘシ

第八十三條 延會又ハ議事中止ノトキ發言ヲ終ラサル議員ハ更ニ討論ヲ始ムルトキニ於テ前ノ發言ヲ繼續スルコトヲ得

第八十四條 議題ニ對スル發言ハ演壇ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ特ニ議長ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八十五條 議長ハ何時ニテモ議席ニ於テ發言スル議員ヲシテ演壇ニ登ラシムルコトヲ得

第八十六條 國務大臣政府委員ハ其ノ席ニ於テ起立シテ發言スヘシ

第八十七條 討論ハ議題外ニ涉ルコトヲ得ス
第八十八條 議員ハ同一ノ議題ニ付發言二回ニ及フコトヲ得ス但シ質疑應答又ハ注意ノ喚起ハ此ノ限ニ在ラス
第八十九條 委員長又ハ報告者ハ其ノ報告ノ趣旨ヲ辯明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得
國務大臣政府委員發言者及動議者ハ議案又ハ發議動議ノ趣旨ヲ辯明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

第九十條 資格ニ付キ異議ヲ申立ラレタル議員又ハ懲罰事犯アリト告ケラレタル議員ハ辯明ノ爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得
第九十一條 議員ハ會議ニ於テ意見書ヲ朗讀スルコトヲ得ス但シ引證ノ爲ニ文書ヲ朗讀スルハ此ノ限ニ在ラス

國務大臣政府委員及委員長又ハ報告者ハ理由書又ハ報告書ヲ朗讀スルコトヲ得

第九十二條 議長自ラ討論ニ與カラムトスルトキハ議席ニ著キ副議長ヲシテ議長席ニ著カシムヘシ

第九十三條 議長討論ニ與カリタルトキハ其ノ問題ノ表決ニ至ルマテ議長席ニ復スルコトヲ得ス

第九十四條 議場ニ於テ議員ヲ呼フトキハ敬稱ヲ用ウヘシ

第九十五條 議長ハ討論ノ終局ヲ宣告ス

第九十六條 發言者未タ盡キスト雖議員討論終局ノ動議ヲ提出シ二十人以上ノ贊成アルトキハ議長ハ議院ニ諮ヒ討論ヲ用弗スシテ之ヲ決スヘシ(明治三十二年三月二日改正)

討論終局ノ動議ハ贊否各二人以上ノ發言アリタル後ニ非サレハ之ヲ提出スルコトヲ得ス但シ一方ノミ二人以上發言シ他ノ一方ニ於テ發言ノ請求者ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス(同上)

討論終局ノ後未タ議題トナラサル修正ノ成案アルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告シ其ノ未タ定規ノ贊成者ヲ備ヘサルモノハ贊成ノ有無ヲ問ヒ而ル後其ノ成案ニ關シ更ニ討論ヲ開クヘキヤ否ヲ討論ヲ用弗スシテ表

決ニ付スヘシ若討論ヲ開クヘカラスト決スルトキハ直ニ之ヲ表決ニ付スヘシ(同上)

委員付託ノ動議ハ討論終局ノ後ト雖之ヲ提出スルコトヲ得但シ本議題ノ可否ニ論及スルコトヲ得ス(同上)

討論終局ノ後本議題ニ關シ國務大臣又ハ政府委員ノ發言アリタルトキハ討論ハ再開シタルモノト看做ス(同上)

討論ニ付セラレタル議題ニ關シ未タ討論ニ入ラサル前ニ質問續出シテ容易ニ終局セサルトキハ議員ハ直ニ討論ニ入ルヘシトノ動議ヲ提出スルコトヲ得此ノ動議ニハ本條第一項ノ規定ヲ適用ス(同上)

第九十七條 凡ソ議院規則ノ疑議ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

第四節 修正

第九十八條 議案ニ對スル修正ノ動議ハ其ノ案ヲ具ヘ議長ニ提出スヘシ

第九十九條 議員ノ提出シタル修正案ハ委員會ノ提出シタル修正案ニ先チテ決ヲ取ルヘシ

第一百條 同一ノ議題ニ付キ數箇ノ修正案提出セラレタル場合ニ於テ議長

ハ表決ノ順序ヲ定ム若議員ノ異議アルトキハ其ノ贊成者アルヲ待チ討論ヲ用非スシテ之ヲ決スヘシ

表決ノ順序ハ原案ニ最モ遠キモノヨリ先ニス

第一百一條 既ニ成立シタル修正ノ動議ハ議院ノ許可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ撤回スルコトヲ得ス

一議員ノ撤回シタル動議ハ他ノ議員定規ノ贊成者ト共ニ之ヲ繼續スルコトヲ得

第一百二條 修正案總テ否決セラレタルトキハ原案ニ就テ決ヲ取ルヘシ

第五節 表決

第一百三條 表決ニハ條件ヲ付スルコトヲ得ス

第一百四條 表決ノ際議場ニ現在セサル議員ハ表決ニ加ハルコトヲ得ス

第一百五條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ表決ニ付スヘキ問題ヲ議院ニ宣告スヘシ

議長表決ニ付スヘキ問題ヲ宣告シタル後ハ議員ハ議題ニ付キ發言スルコトヲ得ス

第一百六條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ問題ヲ可トスル者ヲ起立セシ

メ起立者ノ多少ヲ認定シ可否ノ結果ヲ宣告スヘシ其ノ結果疑ハシト認ムルトキ又ハ議員議長ノ宣告ニ對シ異議アルトキハ反對者ヲ起立セシメテ之ヲ反證シ仍疑ハシト認ムルトキ又ハ議員仍異議ヲ申立十人以上ノ贊成アルトキハ議長ハ書記官ニ命シ議員ノ氏名ヲ點呼セシメ議員ハ起立シテ可否ヲ表スヘシ(明治三十二年三月二日改正)

氏名點呼ノ結果ニ付キ仍議員ヨリ異議ヲ申立テ二十人以上ノ贊成者アルトキハ議長ハ記名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第一百七條 議長必要ト認ムルトキ又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ起立ノ方法ヲ用非スシテ記名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第一百八條 記名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白色票ニ問題ヲ否トスル議員ハ青色票ニ各々其ノ氏名ヲ記シ投票函ニ投入スヘシ

第一百九條 議長必要ト認ムルトキ又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ無名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第一百十條 無名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白球ヲ問題ヲ否トスル議員ハ黒球ヲ特ニ設ケタル函ニ投入シ同時ニ其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ

第一百一十條 氏名點呼又ハ記名若ハ無名投票ヲ行フトキハ議場ノ入口ヲ閉鎖スヘシ

第一百一十二條 投票ヲ終リタルトキハ議長ハ其ノ結果ヲ宣告スヘシ

第一百一十三條 議員ハ自己表決ノ更正ヲ求ムルコトヲ得ス

第六節 豫算會議

第一百四十四條 豫算ノ會議ハ三讀會ヲ經ルヲ要セス

第一百五條 豫算委員豫算案ヲ數部ニ分割シタルトキハ每部ノ審査終ルニ從ヒ會議ヲ開クコトヲ得

豫算各部ノ議事ヲ終リタルトキハ總額ニ付キ確定ノ議決ヲ爲スヘシ

第一百十六條 豫算ノ會議ニ於テ更ニ審査ヲ必要トスル事項ヲ發見シタルトキハ其ノ事項ニ限リ再ヒ豫算委員ニ付託シ之ヲ審査セシムルコトヲ得

第六章 議事錄及速記錄

第一節 議事錄

第一百七十七條 議事錄ハ左ノ事項ヲ記載ス

- 一 議院成立及開會閉會ニ關スル事項及年月日時
 - 二 開議延會及散會ノ月日時
 - 三 出席國務大臣及政府委員ノ氏名
 - 四 勅語及勅旨
 - 五 議長及委員長報告ノ件
 - 六 會議ニ付シタル議案ノ題目
 - 七 議題トナリタル動議及動議者ノ氏名
 - 八 決議ノ事件
 - 九 表決及可否ノ數ヲ計算シタルトキハ其ノ數
 - 十 議院ニ於テ必要ト認メタル事項
- 第一百十八條 議員議事錄ニ記載シタル事實ニ對シテ異議アルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ答辯セシムヘシ議員其ノ答辯ニ服セス又ハ議長ノ處置ニ對シ不服ナルトキハ議長ハ討論ヲ用井スシテ議院ノ決ヲ取ルヘシ
- 第一百十九條 議事錄ハ議長又ハ當日ノ會議ヲ整理シタル副議長若ハ假議長及書記官長又ハ其ノ代理タル書記官之ニ署名捺印スヘシ

第二節 速記錄

第二百一十條 議事速記録ハ速記法ニ依リ議事ヲ記載ス

第二百一十一條 議院法第八十七條ニ依リ議長取消ヲ命シタル發言ハ速記録ニ記載セス

第二百一十二條 演說シタル議員ハ速記録配付ノ當日午後六時マテニ其ノ訂正ヲ求ムルコトヲ得但シ訂正ハ字句ニ止マリ演說ノ趣旨ヲ變更スルコトヲ得ス

速記録ノ訂正ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ議長ハ贊成者アルヲ待チ討論ヲ用弗スシテ議院ノ決ヲ取ルヘシ

第七章 上奏建議及議案ノ奏上

第二百一十三條 議院上奏シ又ハ勅諭ニ對シ奉答ノ敬禮ヲ表セムトスルトキハ議長ハ宮内大臣ニ依リ謁見ヲ請フヘシ

第二百一十四條 議院ノ建議書ハ議長ヨリ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第二百一十五條 政府又ハ衆議院ヨリ提出シタル議案ヲ可決シタルトキハ左ノ言辭ヲ用弗内閣總理大臣ヲ經由シテ奏上スヘシ

貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル某案ノ裁可ヲ奉請ス

第二百一十六條 政府ヨリ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ左ノ言辭ヲ

用弗内閣總理大臣ヲ經由シテ奏上スヘシ

貴族院ハ某案ニ付テ更ニ廟議ヲ盡サレムコトヲ奉請ス

第八章 請願

第二百一十七條 議院ハ請願者ノ住所身分年齢ヲ記シ各自署名捺印シタル請願書ニ非サレハ受理セス但シ請願者自ラ署名スル能ハサルトキ他人ヲシテ代署セシメ自ラ捺印スルモノハ此ノ限ニ在ラス (明治二十四年二月十日改正)

第二百一十八條 法人ノ請願書ハ總代人之二署名シ法人ノ印章ヲ捺スヘシ

第二百一十九條 請願ヲ紹介スル議員ハ請願書ノ表紙ニ紹介議員某ト書スヘシ

第二百二十條 請願委員ハ請願提出ノ順序ニ依リ之ヲ審査スヘシ

第二百二十一條 議員簡單ナル説明書ヲ以テ一ノ請願ニ對シ至急ノ審査ヲ議院ニ請求スルトキハ議長ハ討論ヲ用弗スシテ議院ノ決ヲ取り時日ヲ限リ請願委員ニ付託スヘシ

第二百二十二條 請願文書表ニハ請願ノ趣旨提出ノ年月日請願者ノ住所身分氏名紹介議員ノ氏名ヲ記スヘシ

請願者數名アルトキハ請願者某及外幾名ト記スヘシ

第三百三十三條 請願文書表ハ議長之ヲ印刷セシメテ毎週一回議員ニ配付スヘシ

請願書ハ議院ノ決議ニ依ルニアラサレハ印刷配付セス

第三百三十四條 請願委員ハ審査ノ結果ニ從ヒ左ノ區別ヲ爲シ議院ニ報告スヘシ

一 議院ノ會議ニ付スヘシトスルモノ

二 議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルモノ

第三百三十五條 請願委員ハ議院ノ會議ニ付スヘシトスルノ請願ニ付テハ特別ノ報告ヲ爲スヘシ

第三百三十六條 請願委員ニ於テ議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルノ報告ニ對シ一週間内ニ議員ヨリ會議ニ付スルノ要求ヲ爲ス者ナキトキハ委員ノ決議ヲ以テ確定トス

第三百三十七條 請願書ハ會議ニ付スルモ之ヲ朗讀セス但シ議員朗讀ヲ要求スル者アルトキハ議院ハ討論ヲ用非スシテ之ヲ決スヘシ

第九章 請暇及辭職

第一節 請暇

第三百二十八條 議員事故ノ爲ニ數日間議院ニ出席スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ豫メ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ
公務又ハ疾病若ハ一時已ムヲ得サル事故アリテ議院ニ出席スルコトヲ得サルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ闕席届書ヲ差出スヘシ

第三百二十九條 請暇ノ許可ヲ得議院所在ノ地ヲ離ル、者ハ其ノ出發及歸著ノ時ニ於テ議長ニ届出ヘシ

第三百四十條 議員請暇ノ許可ヲ得タル日限ニ至リ事故ニ由リ仍議院ニ出席スルコトヲ得サルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ更ニ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

第三百四十一條 請暇ノ許可ヲ得タル議員其ノ請暇ノ期限内ニ議院ニ出席スルトキハ請暇許可ノ效ヲ失フ

第二節 辭職

第三百四十二條 伯子男爵被選議員及勅任議員辭職セムトスルトキハ議長ヲ經由シテ之ヲ奏請スヘシ

第四百十三條 辭表中不敬又ハ無禮ノ言辭アリト認ムルトキハ議長ハ其ノ辭表ヲ懲罰委員ニ付シテ審査報告セシメ議院ニ諮フテ後之ヲ處分スヘシ

第十章 警察及秩序

第一節 警察

第四百十四條 議長ハ守衛及警察官吏ヲ指揮シテ議院内部ノ警察權ヲ施行ス

第四百十五條 守衛ハ議院建物内警察官吏ハ議院建物外ノ警察ヲ爲ス

第四百十六條 議院ノ防火點燈導水煖爐及掃除ノ事ハ守衛之ヲ監督ス

第四百十七條 議院内部ニ於テ重罪輕罪ノ現行犯人アルトキハ守衛又ハ警察官吏ハ之ヲ逮捕シテ議長ノ命令ヲ請フヘシ但シ議場ニ於テハ議長ノ命令ヲ待タスシテ逮捕スルコトヲ得ス

第二節 議場内ノ秩序

第四百十八條 議員議場ニ入ルトキハ「フロックコート」又ハ「モーニンコート」若ハ羽織袴ヲ著スヘシ總テ異様ノ服装ヲ爲スヘカラス

第四百十九條 議員議場ニ入ルトキハ外套傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス帽子ヲ著スヘカラス

第四百十條 議場内ニ於テ吸烟スヘカラス

第四百十一條 議員ハ參考ノ爲ニスルモノヲ除ク外議事中新聞紙及書籍ヲ閱讀スルコトヲ得ス

第四百十二條 何人モ議事中贊聲否聲ヲ發シ又ハ喧噪シテ他人ノ演說及朗讀ヲ妨クルコトヲ得ス

第四百十三條 議長號鈴ヲ鳴ラストキハ議員ハ總テ沈黙スヘシ

第四百十四條 凡ソ秩序ノ問題ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

第十一章 傍聽

第四百十五條 傍聽席ヲ分テ皇族席、外國外交官席、高等官席、衆議院議員席、公衆席及新聞記者席トス

第四百十六條 外國外交官ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ外務省ノ照會ニ依リ書記官長ハ其ノ員數ヲ限リ傍聽券ヲ該省ニ送付スヘシ

第四百十七條 官吏ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ所屬官廳ノ照會ニ依リ

書記官長ハ其ノ員數ヲ限リ傍聽券ヲ其ノ官廳ニ送付スヘシ
第五百十八條 公衆ノ傍聽ヲ求ムル者ハ議員ノ紹介ニ依ルヘシ
書記官長ハ豫メ公衆傍聽券ノ員數ヲ定メ之ヲ部長ニ送付シ部長ハ之ヲ
部員ニ配付ス

第五百十九條 議事開始ノ後一時間ヲ經過シ仍傍聽席ニ空位アリテ議員
ノ紹介アルトキハ書記官長ハ傍聽券ヲ交付スルコトヲ得

第六十條 在東京新聞社ノ爲ニ一會期ニ通スル傍聽券二十枚ヲ交付
シ各社ノ協議ヲ以テ之ヲ分配セシムヘシ

第六十一條 傍聽人ハ傍聽券ヲ守衛ニ示シ其ノ指示スル所ノ席ニ著ク
ヘシ

第六十二條 凡ソ傍聽席ニ在ル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 羽織袴又ハ洋服ヲ著スヘシ
- 二 帽子又ハ外套ヲ著スヘカラス
- 三 傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス
- 四 飲食又ハ吸烟スヘカラス
- 五 議員ノ言論ニ對シ可否ヲ表スヘカラス
- 六 喧擾ニ涉リ議事ヲ妨害スヘカラス

第六十三條 戎器兇器ヲ携持シタル者及酩酊シタル者ハ傍聽席ニ入ル
コトヲ許サス

第六十四條 何等ノ事由アルモ傍聽人ハ議場ニ入ルコトヲ得ス

第六十五條 祕密會議ヲ開クノ決議アリタルトキ又ハ傍聽席騷擾ナル
ニ由リ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルトキハ議長ハ守衛ヲシテ其ノ命令
ヲ執行セシムヘシ

第十一章 懲罰

第六十六條 會議ニ於テ懲罰事犯アルトキハ議長ハ會議ヲ中止シ又ハ
犯人ヲ退場セシムルコトヲ得

第六十七條 委員會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長ハ委員會ヲ中止
スルコトヲ得

第六十八條 委員長又ハ部長ニ於テ懲罰事犯ト認メサル事件ニ付テモ
委員又ハ部員ハ議院法第九十八條ニ依リ懲罰ノ動議ヲ議院ニ提出スル
ノ權ヲ失ハス

第六十九條 議院法第九十八條第一項ノ場合ニ於テハ議長ハ討論ヲ用
井スシテ議院ノ決ヲ取り之ヲ懲罰委員ニ付スヘシ

第七十條 懲罰事犯ノ議事ハ秘密會議ヲ以テス

第七十一條 議員ハ自己ノ懲罰事犯ノ會議ニ列席スルコトヲ得ス但シ議長ノ許可ヲ經テ自ラ辯明シ又ハ他ノ議員ヲシテ代リテ辯明セシムルコトヲ得

七十二條 懲罰委員ハ議長ヲ經由シテ本人及關係議員ヲ召喚訊問スルコトヲ得

七十三條 議長ノ制止又ハ取消ノ命ニ從ハサル者ハ議長議院法第八十七條ニ依リ之ヲ處分スルノ外仍懲罰事犯トシテ懲罰委員ニ付スルコトヲ得

七十四條 公開議場ニ於テ謝辭ヲ表セシメムトスルトキハ懲罰委員之ヲ起草シ其ノ報告ト共ニ之ヲ議長ニ提出スヘシ

七十五條 議院ノ命令ニ抵抗シ又ハ議長ノ職權ヲ侮辱シタル者及同會期中譴責セラル、コト三回ニ至リ更ニ譴責ニ當ルヘキ事犯アル者ハ出席ヲ停止スルコトヲ得

七十六條 出席停止ハ一箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

七十七條 出席ヲ停止セラレタル者委員ナルトキハ其ノ任ヲ解クヘシ

七十八條 出席ヲ停止セラレタル者其ノ停止期限内ニ議場ニ入ルトキハ議長ハ直ニ退去ヲ命シ其ノ命ニ從ハサルトキハ必要ノ處分ヲ爲シ更ニ懲罰委員ニ付スヘシ

七十九條 議院法第九十一條ノ禁ヲ犯シ其ノ情特ニ重キ者及同會期中出席ヲ停止セラル、コト三回ニ至リ更ニ出席停止ニ當ルヘキ事犯アルトキハ除名ノ手續ヲナスコトヲ得

八十條 凡ソ議院ノ騷擾ヲ醸シ又ハ議院ノ體面ヲ汚スヘキ所行ニシテ其ノ情重キ者ハ出席ヲ停止シ又ハ除名ノ手續ヲナスコトヲ得

八十一條 議院懲罰ヲ議決シタルトキハ議長ハ公開議場ニ於テ之ヲ宣告ス

八十二條 議長ハ懲罰事犯ト認ムル所ノ言論ノ一部又ハ全部ヲ公布スルコトヲ禁スルコトヲ得

第十二章 衆議院トノ關係

八十三條 議案ヲ衆議院ニ移ストキハ議長ハ書記官ヲ派シ之ヲ衆議院書記官ニ傳達セシム

八十四條 衆議院ヨリ議案ヲ請取リタルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告スヘシ

第百八十五條 協議委員ノ選舉ハ第四十七條ノ規定ヲ適用ス(明治三十年一月二十九日改正)

第百八十六條 議院法第五十五條ニ依リ衆議院ヨリ回付シタル修正案ヲ議シ及協議會ノ報告ヲ議スルニハ三讀會ヲ經ルヲ要セス

第百八十七條 協議會ニ於ケル貴族院ノ委員ハ其ノ報告委員ヲ互選スルコトヲ得

第百八十八條 協議委員ノ數協議會ノ定足數及決議ノ方法並協議會議長ノ權限ハ議院法第六十一條ニ依リ委員ヲ派シ兩院協議シテ之ヲ定ムヘシ

○豫算案議定細則(明治二十四年二月二十七日議決)

第一條 衆議院ヨリ豫算案ヲ受取リタルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告シ及印刷シテ之ヲ各議員ニ配付スヘシ

第二條 議院ハ豫算案審査報告ノ期限ヲ定メ豫算案ヲ豫算委員ニ付託スヘシ

第三條 豫算案ノ審査ハ左ノ順序ニ依ルヘシ
一、歳出ノ部ヨリ始メテ歳入ノ部ニ移ルヘシ

二、歳出入ノ審査ハ各項ニ付之ヲ議決シ次ニ其ノ款ノ總額ニ付議決ヲナスヘシ

第四條 豫算委員ノ各科ニ於テハ豫算案各部ノ審査ヲナスヘシ

第五條 豫算委員各科ノ審査終リタルトキハ主査ヨリ其ノ旨ヲ委員長ニ報告シ委員長ハ豫算委員會ヲ開クヘシ

第六條 各科ノ主査ハ豫算委員會ニ於テ其ノ科ニ於ケル審査ノ報告ヲナシ併セテ其ノ説明ノ責ニ任スヘシ

第七條 豫算委員豫算案ノ審査ヲ終リタルトキハ報告書ヲ作り委員長ヨリ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第八條 議長豫算委員ノ報告書ヲ受取リタルトキハ之ヲ印刷シテ各議員ニ配付シ豫算案ノ會議ヲ開クヘシ

第九條 豫算案ノ會議ニ於テハ第三條ニ規定シタル順序ニ依リ逐次議決スヘシ

第十條 議院ニ於テ憲法第六十七條ニ掲載シタル歳出ノ款項ヲ廢除又ハ削減セントスルトキハ政府ノ同意ヲ求ムルコトヲ議決スヘシ

第十一條 政府ノ同意ヲ求ムルノ議決ヲナシタルトキハ議長ハ文書ヲ以テ之ヲ政府ニ照會スヘシ

前項ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ求ムルモノハ豫算案全部ニ付其ノ款項ヲ列記シテ照會シ又ハ各省所管コトニ照會スルハ議院ノ決スル所ニ依ル

第十二條 前條ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ款項ニ付廢除削減ノ議決ヲナスヘシ

第十三條 議院ニ於テ憲法第六十七條ニ掲載シタル歲出ノ款項ニ付廢除削減ヲ企テサルモノ及政府ノ同意ヲ求メテ之ヲ得サルモノハ議決スルノ限ニアラス

第十四條 議院ハ歲出歲入ノ部ヲ議了シタル後豫算委員ヲシテ豫算案ノ全體ヲ整理シ之ヲ議院ニ報告セシムヘシ

第十五條 衆議院議決ノ豫算案ニ修正ヲ加ヘタルトキハ衆議院ニ之ヲ回付スヘシ

○決算議定細則(明治二十七年五月二十九日議決)

第一條 本院ニ於テ決算ヲ受取リタルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告シ及印刷シテ之ヲ各議員ニ配付スヘシ

第二條 決算委員ハ數科ニ分割シ各科ニ主査ヲ置クヘシ

第三條 決算委員ノ各科ニ於テハ付託セラレタル決算各部ノ審査ヲナスヘシ

第四條 決算委員ノ各科ニ於テ審査終リタルトキハ主査ヨリ其ノ結果ヲ委員長ニ報告スヘシ

第五條 前條ノ審査報告アリタルトキハ決算委員會ヲ開クヘシ

第六條 各科ノ主査ハ決算委員會ニ於テ其ノ科ニ於ケル審査ノ報告ヲナシ併セテ其ノ説明ノ責ニ任スヘシ

第七條 決算委員會ニ於テハ異議アル收支ノ款項ニ限り之ヲ議題トナシ其ノ異議ナキ款項ハ總括シテ之ヲ議決ニ付スヘシ

第八條 決算委員會ニ於テ其ノ決算ヲ至當ナリト決スルトキハ其ノ旨ヲ議長ニ報告スヘシ

第九條 決算委員會ニ於テ其ノ決算中違法又ハ不當ノ收支アリト認ムルトキハ其ノ決議案又ハ上奏案ヲ具ヘテ議長ニ報告スヘシ

第十條 決算委員長ノ報告アリタルトキハ議長ハ之ヲ印刷シテ各議員ニ配付シ其ノ會議ヲ開クヘシ

第十一條 決算ノ會議ニ於テハ決算委員長ノ報告ヲ議題トナスヘシ

○兩院協議會規程(明治二十四年二月二十八日議決)

- 第一條 甲議院ニ於テ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ其件名及理由ヲ記シ文書ヲ以テ之ヲ乙議院ニ通知スヘシ
- 第二條 協議委員ノ數ハ協議會ヲ求ムル議院之ヲ定ム
- 第三條 協議會初會ノ日時ハ兩院議長ノ協議ニ依テ之ヲ定メ爾後會議ノ日時ハ協議會之ヲ定ム
- 第四條 協議會ハ協議室ニ於テ之ヲ開ク
- 第五條 協議會ハ兩院ノ委員各三分ノ二以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開クコトヲ得ス
- 第六條 甲議院ノ出席委員乙議院ノ出席委員ヨリ多キトキハ表決ノ際抽籤ヲ以テ其超過シタル數ノ委員ヲ減除ス但議長ハ其數ニ算入セス
- 第七條 協議會ノ議長ハ會議ヲ整理シ秩序ヲ保持ス
- 第八條 協議會ノ議長自ラ討議ニ與ラントスルトキハ其院ノ副議長ヲシテ代テ議長席ニ著カシムヘシ
- 第九條 協議委員ハ協議會ニ於テ同一ノ事件ニ付幾回タリトモ發言スルコトヲ得

- 第十條 協議會ニ於ケル動議ハ一名以上ノ贊成ニ依リ議題トナスヘシ
- 第十一條 協議會ノ議事ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ決ス
- 第十二條 兩院ノ協議委員ハ各副議長一名ヲ選ヒ議長故障アルトキハ之ヲ代理セシム
- 議長副議長共ニ故障アルトキハ其院ノ委員中ヨリ假議長ヲ選定シ議長ノ職務ヲ行ハシム
- 第十三條 協議會ノ議事録及議事速記録ハ各二部ヲ作り協議會ノ議長之ニ檢印スヘシ
- 第十四條 協議會ノ議事録及其他ノ文書ハ各院ノ書記官ヲシテ之ヲ掌ラシム
- 第十五條 協議會ノ議事録又ハ議事速記録ノ記事ニ對シ異議アルトキハ協議會之ヲ決ス
- 第十六條 協議會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ協議會ノ議長ハ之ヲ其ノ委員所屬議院ノ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

○貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則(明治二十三年十月)

勅令第二百二十一號

- 第一條 貴族院ハ每會期ノ始ニ於テ貴族院議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ審査スル爲ニ常任委員ヲ選舉スヘシ
- 第二條 伯子男爵議員ノ各選舉人又ハ多額納稅者議員ノ互選人貴族院令第九條ニ依リ出訴スル者ハ當選議員ヲ被告トスヘシ
- 第三條 原告人ハ訴狀及其ノ副本一通ヲ作り之ヲ議長ニ差出スヘシ議長訴狀ヲ受取リタルトキハ之ヲ資格審査委員ニ付ス
- 第四條 訴狀ニハ請求ノ要領理由及立證ヲ具ヘ原告人自ラ署名スヘシ
- 第五條 資格審査委員ハ訴狀ノ副本ヲ被告人ニ送達シ期日ヲ定メ被告人ヲシテ答辯書及其ノ副本一通ヲ差出サシメ其ノ副本ハ之ヲ原告人ニ送達スヘシ
- 委員ハ必要ト認ムルトキハ原告被告ヲシテ更ニ辯駁書及再答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得
- 第六條 原告被告ハ郵便ヲ以テ文書ヲ差出スコトヲ得郵便到達ノ日數ハ期限ニ算入セス
- 第七條 資格審査委員ハ議長ヲ經由シテ議員ノ選舉ニ關ル證憑文書ヲ政府ニ要求スルコトヲ得
- 第八條 審査ノ結果ニ因リ刑法ニ觸ル、ノ事件ヲ發見シタルトキハ議長

- ヨリ之ヲ司法大臣ニ通告スヘシ但シ之カ爲ニ審査及判決ヲ中止セス
- 第九條 被告人期日內ニ答辯書ヲ差出サ、ルトキハ資格審査委員ハ直ニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得
- 天災事變ニ因リ期日內ニ答辯書ヲ差出スコト能ハサリシコトヲ證明スル者アルトキハ議長ハ更ニ期日ヲ定メ之ヲ差出サシムルコトヲ得
- 第十條 資格審査委員其ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後院議ニ付スヘシ
- 第十一條 議院ニ於テ判決シタルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ其ノ議事録ニ依リ議決ノ謄本ヲ作ラシメ之ヲ原告被告ニ送達スヘシ
- 議院ノ判決ハ理由ヲ付セス
- 第十二條 貴族院ニ於テ議員ノ當選又ハ資格ヲ不法ト判決シタルトキハ議長ハ其ノ位列ヲ停止シテ奏上スヘシ
- 第十三條 被告議員ハ前條ノ判決ヲ受クルマテ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自己ニ關ル爭訟ニ付テハ自己又ハ他ノ議員ニ託シ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス
- 被告議員ハ自己ニ關ル爭訟ニ付テハ委員會ニ參スルコトヲ得ス
- 第十四條 補關議員ノ選舉開院中ニ在ルトキハ伯子男爵ニ在テハ當選確

定ノ後多額納稅者ニ在テハ勅任セラレタル後十日ヲ以テ出訴ノ期限トス

前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ仍次會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ第三條第四條第五條第七條第九條第十條第十一條第十二條第十三條ノ例ニ依リ審査及判決スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ貴族院伯子男爵議員選舉規則第十八條及貴族院多額納稅者議員互選規則第二十六條ニ掲ケタル期限ノ限ニ在ラス

○貴族院伯子男爵議員選舉規則(明治二十二年六月勅令第七十八號)

第一條 伯子男爵ヲ有スル成年以上ノ者ハ各々其ノ同爵者ノ貴族院議員ヲ選舉ス

第二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第三條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

- 一 瘋癲白癡ノ者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第四條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五條 貴族院令第四條ニ依リ選ハルヘキ議員ノ數ハ選舉ヲ行フノ前勅命ヲ以テ之ヲ指定スヘシ

第六條 爵位局長官ハ選舉ノ期日ヨリ五十日前ニ選舉資格ヲ有スル伯子男爵ノ人名簿ヲ各別ニ調製シ選舉資格ヲ有スル同爵者ニ配付シ三十日前ニ之ヲ確定シテ各選舉管理者ニ交付スヘシ

確定期日ノ前ニ於テ新ニ資格ヲ得及回復シタル者アルトキハ之ヲ名簿ニ記入スヘシ

第七條 選舉ハ伯子男爵ノ選舉資格ヲ有スル者ヨリ各々一人ノ選舉管理者ヲ互選シテ之ヲ管理セシム

選舉管理者ハ貴族院令第四條ニ依リ議員ノ更任アル毎ニ之ヲ改選スヘシ

選舉管理者ハ選舉及被選ノ權ヲ妨ケラルハコトナシ

第八條 各選舉管理者ハ選舉人ノ中ヨリ各々其ノ同爵ノ選舉立會人三人以上ヲ指定シテ選舉會場ニ參會セシムヘシ

第九條 選舉ハ七月十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第十條 選舉人ハ自ラ選舉會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ爵姓名ヲ列記シ次ニ自己ノ爵姓名ヲ記載スヘシ

第十一條 選舉人東京府ノ外ニ居住シ又ハ疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ同爵中ノ他ノ選舉人ニ投票ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シ委託ノ證狀ト共ニ委託ヲ受クル者ニ送付スヘシ

第十二條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十三條 前數條ニ掲ケタル者ノ外選舉ニ關ル一切ノ規程ハ選舉資格ヲ有スル伯子男爵ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十四條 當選人確定シタルトキハ選舉管理者ハ其ノ爵姓名ヲ上奏シ併セテ貴族院議長ニ報告スヘシ

第十五條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第十六條 議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命シ及其ノ期日ヲ指定スヘシ

補闕選舉ヲ行フノ手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ

第十七條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十八條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ貴族院開會ノ後十日以内トス

○貴族院多額納稅者議員互選規則(明治二十二年六月勅令第七十九號)

第一條 貴族院令第六條ニ依リ貴族院議員ヲ互選スル者ハ互選名簿調製

ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ住居シ及納稅スル者タルヘシ

第二條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ互選人タルコトヲ得ス

第四條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ互選人タルコトヲ得ス
一 瘋癲白癡ノ者
二 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

三 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
 四 舊法ニ依リ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
 六 衆議院議員ノ選舉ニ關ル犯罪ニ依リ選舉權及被選權ノ停止中ノ者
 第五條 陸海軍軍人ハ現役中互選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第六條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ互選人タルコトヲ得ス

第七條 互選人選舉ニ關リ輕罪以上ノ罪ヲ犯シタルトキハ互選名簿ヨリ除名セララルヘシ

第八條 府縣知事ハ選舉ヲ行フノ年四月一日ヲ期トシ其ノ府縣ニ於テ互選資格ヲ有スル者十五人ノ名簿ヲ調製スヘシ

互選名簿ハ互選人ノ姓名、職業、身分、住所、生年月、土地或ハ工業商業ニ付納ムル所ノ直接國稅ノ細別及總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第九條 納稅同額ノ者アルトキハ生年月ノ長者ヲ先ニシ同年月ノ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條 府縣知事ハ四月二十日マテニ互選名簿ヲ各互選人ニ配付シ併セテ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第十一條 互選資格ヲ得ヘキ者ニシテ自ラ互選名簿ニ記載セラレサルコトヲ發見シタルトキハ告示ノ後十五日以内ニ其ノ理由書及證憑ヲ具ヘテ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

凡テ互選資格ヲ得タル者ハ互選資格ヲ得ヘカラサル者ノ互選名簿ニ記載セラレタルコトヲ發見シタルトキハ前項ノ手續ニ依リ改正ヲ求ムルコトヲ得

期限ヲ經過シタル後申立ヲ爲スモ其ノ效ナシ

第十二條 府縣知事前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ之ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ判定スヘシ判定ノ結果ニ依リ名簿ヲ改正シタルトキハ其ノ由ヲ關係人ニ通知シ併セテ管内ニ告示スヘシ

第十三條 互選名簿ハ六月一日ヲ以テ確定期限トス

第十四條 選舉ハ六月十日府縣廳ニ於テ之ヲ行ヒ府縣知事又ハ其ノ代理者之ヲ管理ス

第十五條 府縣知事ハ投票ノ時刻ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ七日前ニ各互選人ニ通知書ヲ發スヘシ

第十六條 互選人ハ自ラ選舉會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名ヲ記載スヘシ

第十七條 互選人疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ醫

師ノ診斷書又ハ事由書ヲ具ヘ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シテ之ヲ他ノ互選人ニ委託スルコトヲ得

第十八條 投票終ルノ後選舉管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢シ

其ノ結果ヲ告知スヘシ但シ當選人其ノ場ニ在ラサルトキハ文書ヲ以テ速ニ其ノ由ヲ本人ニ通知スヘシ

第十九條 投票效力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉管理者之ヲ決定ス

第二十條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十一條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭スルトキハ次ノ投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トスヘシ

當選人當選ヲ辭スルコトヲ得ルハ選舉ノ日ヨリ十日以内ニ限ル

第二十二條 當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選人ノ資格及選舉ノ顛末ヲ錄シテ內閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十三條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第二十四條 議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ其ノ府縣ニ命スヘシ

補闕選舉ヲ行フノ時期及手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ

第二十五條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第二十六條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ開會ノ後十日以内トス

○貴族院令並貴族院伯子男爵議員選舉規則
及貴族院多額納稅者議員互選規則施行ノ

詔書(明治二十三年
二月二十七日)

朕嚮ニ公布セシムル所ノ貴族院令並ニ貴族院伯子男爵議員選舉規則及貴族院多額納稅者議員互選規則ヲ本年ヨリ施行スルコトヲ命ス但シ未タ一般ノ地方制度ヲ準行セサル北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ仍貴族院多額納稅者議員互選規則施行ノ效力ヲ及ホサス

○貴族院伯子男爵議員選舉人員ニ關スル詔書

書(明治四十四年五月九日)

朕貴族院令第四條及貴族院伯子男爵議員選舉規則第五條ニ依リ伯子男爵ハ本年ノ選舉期ニ於テ左ノ員數ヲ選舉スヘキコトヲ命ス

伯爵 十七人
子爵 七十人
男爵 六十三人

(參照)

○貴族院伯子男爵議員選舉人員沿革表

種別	詔書月日		
	明治二十三年二月二十八日(第一回)	明治三十年四月十四日(第二回)	明治三十七年四月十九日(第三回)
伯爵	十五人	十五人	十七人
子爵	七十人	七十人	七十人
男爵	二十八人	三十五人	五十六人
備考	山縣内閣總理大臣兼内務大臣副署	松方内閣總理大臣副署	桂内閣總理大臣副署

○貴族院伯子男爵議員選舉規程(伯子男爵議員選舉規則第十三條ニ依リ制定)

第一章 選舉人名簿

第一條 凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證據ヲ具ヘテ選舉期日ヨリ三十五日前ニ爵位局長ニ申立テ其改正ヲ求ムルコトヲ得

第二條 爵位局長選舉人名簿ヲ確定シ又ハ貴族院ノ判決ニ依リ確定名簿ヲ改正シテ交付シタルトキハ選舉管理者直ニ之ヲ各選舉人ニ配付スヘシ

第二章 選舉管理者及立會人

第三條 選舉管理者選舉ハ選舉期日ヨリ四十日前ニ於テ之ヲ爲スヘシ
選舉管理者ヲ選定スルハ投票ノ最大數ニ依ル若シ投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 選舉管理者選舉會場ハ華族會館トス其期日ハ同爵中在東京首席ノ者ヨリ期日十日前各同爵者ニ通知スヘシ

第五條 選舉管理者選舉會場ノ整理ハ同爵中在東京首席ノ者之ヲ爲シ又

ハ首席者ノ指名シタル同爵者之ヲ爲スヘシ
第六條 選舉管理者及立會人ハ正當ノ理由ナクシテ其任ヲ辭スルコトヲ得ス

第七條 選舉管理者當選シタルトキハ三日以内ニ同爵中在東京首席ノ者ヨリ貴族院議長及爵位局長ニ届出テ各同爵者ニ通知スヘシ

第八條 選舉管理者ヲ選舉セシ投票ハ選舉管理者任期ノ終ルマテ保存スヘシ

第九條 選舉管理者疾病其他事故アリテ闕席スルトキハ順次ニ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ臨時選舉管理者ト定ム
選舉立會人疾病其他事故アリテ闕席スルトキハ選舉管理者更ニ選舉立會人ヲ指定スヘシ

第二章 選舉會場

第十條 選舉會場ハ華族會館トス

第四章 選舉

第十一條 投票ハ午前七時ニ始メ正午十二時ニ終ル但シ選舉管理者ハ豫

メ公告シテ時限ヲ變換スルコトヲ得

第十二條 投票函ハ每爵ニ之ヲ設備シ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ケ其一ハ選舉管理者之ヲ管守シ其一ハ選舉立會人ノ内一人之ヲ管守スヘシ

第十三條 選舉管理者ハ投票ノ初ニ當リ選舉立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

第十四條 選舉人ハ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第十五條 投票用紙ハ選舉管理者其式ヲ定メ選舉期日前之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

第十六條 貴族院伯子男爵議員選舉規則第十一條ノ規定ニ依リ委託ヲ受ケタル選舉人ハ其證狀ヲ選舉管理者ニ提出シ承認ヲ得タル後委託ノ投票ヲ投票函ニ投入スヘシ

第十七條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ選舉管理者ハ其由ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第十八條 選舉管理者ハ選舉立會人ト共ニ投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若シ投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其由ヲ選舉明細書ニ記載スヘシ

第十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉管理者選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第二十條 前二條ノ場合ニ於テ選舉人ハ參觀スルコトヲ得

第二十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

- 一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票
- 二 定式ノ用紙ヲ用非サルモノ
- 三 選舉人自己ノ爵姓名ヲ記載セサルモノ
- 四 資格ナキ被選人ノ爵姓名ヲ記載スルモノ但シ其列記中資格アル者ニ付テハ其效アルモノトス
- 五 誤字脱字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサル者但シ通常ノ假名字ヲ用非又ハ誤字脱字ニ係ルモ明ニ其姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此限ニ在ラス
- 六 貴族院伯子男爵議員選舉規則第十條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタル者但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其官位勳等住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用非タルモノハ此限ニ在ラス
- 七 貴族院伯子男爵議員選舉規則第十一條第二項ノ規定ニ依ラサル委託ノ投票

第二十二條 投票效力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉立會人ノ意見ヲ聞キ選舉管理者之ヲ決定ス此決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二十三條 投票ニ記載シタル人名其選舉スヘキ定員ヨリ多キトキハ其定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

其選舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタルモノ、ミヲ計算シ一人ノ姓名ヲ複記シタルモノハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第二十四條 投票ハ一箇年間選舉管理者之ヲ保存シ期限ヲ經過シタル後燒棄ツヘシ

無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其由ヲ選舉明細書ニ記載シ前項ノ期限ヲ經過シタル後燒棄ツヘシ

第二十五條 選舉ニ關リ爭訟アルトキハ前條ノ期限ヲ經過スルモ判決ニ至ルマテ其投票ヲ保存スヘシ

第五章 當選人

第二十六條 當選人定リタルトキハ選舉管理者ハ直ニ當選人ニ通知書ヲ發シ及其爵姓名ヲ選舉人ニ報告スヘシ

第二十七條 當選人當選通知書ヲ受ケタルトキハ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ其選舉管理者ニ届出ヘシ

第二十八條 當選人東京ニ在ル者ハ五日以内他ノ地方ニ在ル者ハ三十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ其期限ハ當選通知書ヲ發シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第二十九條 當選人ニシテ當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ順次ニ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ但シ得票者既ニ盡キタルトキハ選舉管理者ハ再ヒ選舉ヲ行フヘシ

第三十條 當選人確定シタルトキハ選舉管理者ハ當選證書ヲ附與シ及選舉人ニ報告シ貴族院伯子男爵議員選舉規則第十四條ノ手續ヲ爲スヘシ

第六章 選舉會場取締

第三十一條 選舉管理者ハ選舉會場ノ秩序ヲ保持スヘシ

第三十二條 選舉人ニ非サル者ハ選舉會場ニ入ルコトヲ許サス

第三十三條 選舉會場ニ於テハ一切ノ演說討論及喧噪ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第三十四條 選舉會場ニ於テハ選舉管理者ノ命令ニ對シテ異議ヲ申立ルコトヲ得ス選舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉管理者ハ之ヲ警戒シ其命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場ノ外ニ退出セシムヘシ

第三十五條 選舉會場ノ外ニ退出セシメタル者ハ其投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ選舉會場ニ呼入ル、コトヲ得

第七章 補則

第三十六條 選舉ニ關ル費用ハ選舉管理者之ヲ報告シ貴族院伯子男爵議員選舉規則第十九條ニ依リ徵收スヘシ

第三十七條 此規程ニ關ル書式ハ別ニ之ヲ定ム

第三十八條 此規程ヲ改正又ハ増補セントスル者ハ每爵選舉資格ヲ有スル十人以上ノ贊成者ヲ得テ在東京伯子男爵ノ各首席者ニ意見書ヲ提出シ三爵協議會ヲ開クヲ求ムルコトヲ得

○貴族院伯子男爵議員選舉規程ニ關ル書式

●選舉管理者當選届書

第一編

貴族院伯子男爵議員選舉規程(補則)、貴族院伯子男爵議員選舉規程ニ關ル書式

得票何枚 爵

八十八

右何爵選舉管理者ニ當選承諾候仍テ及御届候也

年月日

年 姓

月

生 名

貴族院議長爵姓名殿

爵

姓

名

印

●投票書

被選人

爵

姓

名

印

選舉人

爵

姓

名

印

●委託證狀

委託證狀

名儀 東京府外居住ニ付貴族院議員選舉會場へ出席難致仍テ封緘ノ投票

ヲ爵姓名ニ委託ス

年月日

爵

姓

名

印

●當選通知書

同爵者貴族院議員選舉會ニ於テ貴殿得票何枚ヲ以テ議員ニ當選ス此

段及通知候條來何日限リ諾否可被届出候也

何爵選舉管理者

年月日

爵

姓

名

印

爵姓名殿

●當選人名報告書

貴族院議員當選人名

得票何枚 爵

年 姓

月

生 名

得票何枚 爵

年 姓

月

生 名

右選舉立會人爵姓名爵姓名爵姓名ト共ニ檢定ス仍テ之ヲ報告ス

何爵選舉管理者

年月日

爵

姓

名

何爵選舉人

爵姓名殿

●當選承諾書

當選承諾書

同爵者ノ投票ニ依リ貴族院議員ニ當選シ其任ニ就クコトヲ承諾ス
年 月 日 爵 姓 名 印

何爵選舉管理者

爵 姓 名 殿

●當選證書

當選證書

得票何枚

位 勳 等 爵 姓 名

同爵者ノ投票ニ依リ貴族院議員ニ當選シタルコトヲ證明ス
年 月 日 生

何爵選舉管理者

位 勳 等 爵 姓 名

何爵選舉
者印

●選舉人へ當選人確定報告書

同爵者貴族院議員當選人（ノ内爵姓名ハ、當選ヲ辭ス承諾
ノ届出ヲ爲サス）仍テ爵姓名得
票何枚ヲ以テ當選ス其他）去何日報告之通確定候此段更ニ及報告候
也

何爵選舉管理者

爵 姓 名

年 月 日

何爵選舉人

爵 姓 名 殿

●上奏書

何爵中貴族院議員當選人名ヲ檢定シ別紙ニ記録シテ上奏ス誠惶謹言
何爵選舉管理者

位 勳 等 爵 姓 名

何爵選舉
者印

年 月 日

別紙

貴族院議員當選人名

得票何枚 位 勳 等 爵 姓 名

得票何枚 位 勳 等 爵 姓 名

右選舉立會人爵姓名爵姓名爵姓名ト共ニ之ヲ檢定ス

何爵選舉管理者

位 勳 等 爵 姓 名

何爵選舉
者印

●貴族院議長へ當選人確定報告書

第一編 貴族院伯子男爵議員選舉規程ニ關ル書式

貴族院議員當選人名

得票何枚 爵

年 姓

月

生 名

得票何枚 爵

年 姓

月

生 名

右及報告候也

何爵選舉管理者

爵

姓

名

印

年 月 日

貴族院議長爵姓名殿

●選舉明細書送致書

貴族院議員選舉ニ關ル選舉明細書副本一通及送致候也

年 月 日

何爵選舉立會人

爵

姓

名

印

爵

姓

名

印

何爵選舉管理者

爵

姓

名

印

貴族院議長爵姓名殿

○貴族院多額納稅者議員ノ補闕選舉ニ關ス

ル件

(明治二十七年五月 勅令第五十七號)

第一條 府縣知事ハ貴族院多額納稅者議員ノ補闕選舉ノ命ヲ受ケタル日ヲ期トシ其ノ府縣ニ於テ互選資格ヲ有スル者十五人ノ名簿ヲ調製シ其ノ期日後二十日以内ニ之ヲ各互選人ニ配付シ併セテ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第二條 前條ノ互選名簿ハ告示後四十日ヲ經過スルトキハ確定トス

第三條 貴族院多額納稅者議員ノ補闕選舉ハ互選名簿確定後十日目ニ之ヲ行フヘシ

○貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方

(明治二十三年三月内務省 訓令第七號)

第一條 貴族院令第六條ニ滿三十歳トアルハ其選舉期日(六月十日)前滿三十歳ニ達スル者ヲ指ス

第二條 互選規則第一條ニ其府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居トアルハ衆議院議員選舉法施行規則第二條ノ例ニ異ナラス

第一編 貴族院多額納稅者議員ノ補闕選舉ニ關スル件、貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方

第三條 互選規則第一條ニ多額ノ直接國稅トアルハ地租及土地又ハ工業

商業ノ利益ヨリ生スル所得納稅額而已ヲ合算シテ名簿調製ノ期日(四月一日)前滿一年以上多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ納ムルモノヲ云

第四條 賣買讓與等ニ依リ土地所有權ノ移轉スルアルモ地租ハ土地臺帳

記名者ノ納稅資格ニ算入シ又質入地ノ地租ハ質權者ノ納稅資格ニ算入ス數人共有ノ土地ヨリ納ムル地租ノ計算方及互選規則第三條ニ神官及

諸宗ノ僧侶又ハ教師トアルハ凡テ衆議院議員選舉法施行規則第五條第九條ノ例ニ異ナラス(明治三十七年三月十一日改正)

第五條 貴族院令第六條ニ多額ノ直接國稅ヲ納ムル者トアル中ニハ華族

第六條 貴族院令第六條ニ云フ其選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其任期中

納稅額ノ減スルコトアルモ同令第十條ノ場合ニアラサレハ其議員ノ資格ヲ失ハサルハ勿論ナリトス

第七條 互選ニ關スル費用ハ府縣廳費ノ支辨ニ屬ス

○議會並議員保護ノ件(明治二十二年十一月法律第二十八號)

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月

以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

○衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接

國稅ト稱スル種目ノ件(明治二十二年三月勅令第四十一號)

衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スルモノ左ノ如シ

地租
所得稅
營業稅

(明治二十九年七月勅令第二百六十三號ヲ以テ追加)

○貴族院議員ノ選舉ニ應シタル者ハ宮内省

中兼職ヲ得サル部局指定(明治二十三年七月八日宮内省達第十二號)

貴族院議員ノ選舉ニ應シタル者ハ宮内省中左ノ部局ノ職務ヲ兼ヌルコトヲ得ヌ

- 侍從職
- 式部職
- 皇太后宮職
- 皇后宮職
- 東宮職
- 大膳職
- 主殿寮
- 主馬寮

主獵局
帝室會計審査局
皇族家職

○帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給

規則(明治二十三年十月勅令第二百六十三號)

第一條 帝國議會議長副議長及議員ノ歲費ハ毎年七月ヨリ翌年六月ニ至ル十二箇月ヲ以テ一歲トシ計算ス

第二條 議長副議長及議員ノ歲費ハ其ノ前六箇月分ヲ帝國議會通常會開會ノ後三十日以内ニ其ノ後六箇月分ヲ臨時會ノ後七日以内ニ支給ス

七月以後臨時議會又ハ憲法第四十五條ノ議會開會ノ場合ニ於テハ其ノ閉會ノ當月マテノ分ノ歲費ヲ閉會ノ後七日以内ニ支給ス六月以前開會シ七月以後ニ於テ閉會シタルトキ亦同シ(大正三年九月勅令第百八十六號ヲ以テ追加)

六月以前憲法第四十五條ノ議會開會ノ場合ニ於テハ六月マテノ分ノ歲費ヲ閉會ノ後七日以内ニ支給ス(同上)

第三條 議長副議長ノ歳費ハ其ノ勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス
議長副議長ニ勅任セラレタル議員ノ歳費ハ其ノ勅任セラレタル前月分
マテヲ支給ス

第四條 貴族院勅任議員ノ歳費ハ其ノ勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス
(明治二十四年八月勅令第七十九號ヲ以テ改正)

第五條 議長副議長及議員退職辭職除名ノ場合ニ於テハ其ノ當月分マテ
ヲ支給ス

第六條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ議長副議長及議員ノ歳費
ハ解散ヲ命セラレタル當月分マテヲ支給ス

第七條 衆議院解散ヲ命セラレタル後選舉セラレタル議員及補闕議員ノ
歳費ハ其ノ選舉セラレタル當月分ヨリ支給ス

第八條 衆議院ノ議員貴族院ノ議員トナリタルトキ其ノ他如何ナル場合
ヲ問ハス歳費ハ同一人ニ對シ重複支給セス

第九條 官吏ニシテ議員タル者官吏ヲ罷メタルトキハ其ノ當月分ヨリ議
員ニシテ官吏ニ任セラレタル者仍議員タルトキハ其ノ當月分マテヲ支
給ス

第十條 議長副議長及議員ノ旅費ハ別表定ムル所ニ從ヒ之ヲ支給ス官吏

ニシテ議員タル者亦同シ

上京旅費ハ歳費ノ前半額ト歸郷旅費ハ歳費ノ後半額ト同時ニ之ヲ支給
ス

臨時議會又ハ憲法第四十五條ノ議會開會ノ場合ニ於テハ旅費ハ其ノ都
度之ヲ支給ス(大正三年九月勅令第八十六號ヲ以テ追加)

議長副議長及議員召集ニ應シタル後衆議院解散ヲ命セラレタルトキ又
ハ任期滿了シタルトキト雖歸郷旅費ヲ支給ス其ノ死亡ノ場合ニ於テハ
之ニ相當スル金額ヲ其ノ遺族ニ支給ス(大正三年十二月勅令第二百六十二號ヲ
以テ追加)

第十一條 旅費ハ當選區ノ何地ニ在ルヲ問ハス其ノ住居地ヨリ直路ノ里
程ヲ計算シテ之ヲ支給ス

第十二條 議院ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居スル者ハ何地ノ議員タルヲ問
ハス旅費ヲ支給セス

第十三條 汽車旅行ハ一日二百哩詰汽船旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ
一日十二里詰ノ割合ヲ以テ直路ノ行程ニ應シ日當ヲ支給ス但シ一日ノ
行程ニ滿タサル端數ハ切捨トス

第十四條 召集ニ應セサル議員ニハ事故ノ如何ヲ問ハス旅費ヲ支給セス

旅費表(明治三十年九月勅令第三百三十五號ヲ以テ改正)

汽車一哩ニ付	汽船一海里ニ付	車馬一里ニ付	日當
五錢	六錢	二十五錢	三圓

● 參考

○ 皇室典範(明治二十二年二月十一日)

第一章 皇位繼承

- 第一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス
- 第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ
- 第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス
- 第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル
- 第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ

- 第六條 皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ
- 第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ
- 第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス
- 第九條 皇嗣精神若ハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

- 第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク
- 第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ
- 第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章 成年立后立太子

- 第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

第十七條 天皇太皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫在ラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一 親王及王

第二 皇后

第三 皇太后

第四 太皇太后

第五 内親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其ノ任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第六章 太傅

- 第二十六條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム
- 第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス
- 第二十八條 太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス
- 第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第七章 皇族

- 第三十條 皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王妃内親王王妃女王ヲ謂フ
- 第三十一條 皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ王女ヲ女王トス
- 第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ王女王タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス
- 第三十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス
- 第三十四條 皇統譜及前條ニ關ル記録ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス
- 第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條 皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官寮ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ選舉セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選スヘシ

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十條 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ副署ス

第四十二條 皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 皇族國疆ノ外ニ旅行セムトスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章 世傳御料

第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス

第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條 皇室經費ノ豫算決算検査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及懲戒

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ施行ス

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セス

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス

第五十二條 皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部

ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

第五十三條 皇族蕩産ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘシ

第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章 皇族會議

第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム

第十二章 補則

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

第五十九條 親王内親王王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ牴觸スル例規ハ總テ之ヲ廢

第六十一條 皇族ノ財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ
第六十二條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必要アルニ
當テハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

○皇室典範增補(明治四十年
二月十一日)

第一條 王ハ勅旨又ハ情願ニ依リ家名ヲ賜ヒ華族ニ列セシムルコトアル
ヘシ

第二條 王ハ勅許ニ依リ華族ノ家督相續人トナリ又ハ家督相續ノ目的ヲ
以テ華族ノ養子トナルコトヲ得

第三條 前二條ニ依リ臣籍ニ入りタル者ノ妻直系卑屬及其ノ妻ハ其ノ家
ニ入ル但シ他ノ皇族ニ嫁シタル女子及其ノ直系卑屬ハ此ノ限ニ在ラス
第四條 特權ヲ剝奪セラレタル皇族ハ勅旨ニ由リ臣籍ニ降スコトアルヘ
シ

前項ニ依リ臣籍ニ降サレタル者ノ妻ハ其ノ家ニ入ル

第五條 第一條第二條第四條ノ場合ニ於テハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢
ヲ經ヘシ

第六條 皇族ノ臣籍ニ入りタル者ハ皇族ニ復スルコトヲ得ス

第七條 皇族ノ身位其ノ他ノ權義ニ關スル規程ハ此ノ典範ニ定メタルモ
ノノ外別ニ之ヲ定ム

皇族ト人民トニ渉ル事項ニシテ各々適用スヘキ法規ヲ異ニスルトキハ
前項ノ規程ニ依ル

第八條 法律命令中皇族ニ適用スヘキモノトシタル規定ハ此ノ典範又ハ
之ニ基ツキ發スル規則ニ別段ノ條規ナキトキニ限り之ヲ適用ス

○公式令(明治四十年一月
勅令第六號)

第一條 皇室ノ大事ヲ宣誥シ及大權ノ施行ニ關スル勅旨ヲ宣誥スルハ別
段ノ形式ニ依ルモノヲ除クノ外詔書ヲ以テス

詔書ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ其ノ皇室ノ大事ニ關スルモノニハ宮内大
臣年月日ヲ記入シ内閣總理大臣ト俱ニ之ニ副署ス其ノ大權ノ施行ニ關
スルモノニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務各
大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第二條 文書ニ由リ發スル勅旨ニシテ宣誥セサルモノハ別段ノ形式ニ依
ルモノヲ除クノ外勅書ヲ以テス

勅書ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ其ノ皇室ノ事務ニ關スルモノニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス其ノ國務大臣ノ職務ニ關スルモノニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

第三條 帝國憲法ノ改正ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ樞密顧問ノ諮詢及帝國憲法第七十三條ニ依ル帝國議會ノ議決ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ他ノ國務各大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第四條 皇室典範ノ改正ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ國務各大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第五條 皇室典範ニ基ツク諸規則、宮内官制其ノ他皇室ノ事務ニ關シ勅定ヲ經タル規程ニシテ發表ヲ要スルモノハ皇室令トシ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス國務大臣ノ職務ニ關連スル皇室令ノ上諭ニハ内閣總理大臣又ハ内閣總理大臣及主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス
皇室會議及樞密顧問又ハ其ノ一方ノ諮詢ヲ經タル皇室令ノ上諭ニハ其

ノ旨ヲ記載ス

第六條 法律ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務各大臣若ハ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル法律ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載ス

第七條 勅令ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務各大臣若ハ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル勅令及貴族院ノ諮詢又ハ議決ヲ經タル勅令ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載シ帝國憲法第八條第一項又ハ第七十條第一項ニ依リ發スル勅令ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載ス

帝國議會ニ於テ帝國憲法第八條第一項ノ勅令ヲ承諾セサル場合ニ於テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布スル勅令ノ上諭ニハ同條第二項ニ依ル旨ヲ記載ス

第八條 國際條約ヲ發表スルトキハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐

第九條 豫算及豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スノ件ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

第十條 閣令ニハ各省大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス

第十一條 皇室令、勅令、閣令及省令ハ別段ノ施行時期アル場合ノ外公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行ス

第十二條 前數條ノ公文ヲ公布スルハ官報ヲ以テス

第十三條 國書其ノ他外交上ノ親書、條約批准書、全權委任狀、外國派遣官吏委任狀、名譽領事委任狀及外國領事認可狀ニハ親署ノ後國璽ヲ鈐シ主任ノ國務大臣之ニ副署ス外務大臣ニ授クル全權委任狀ニハ內閣總理大臣之ニ副署ス

第十四條 親任式ヲ以テ任スル官ノ官記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記

入シ之ニ副署ス

內閣總理大臣ヲ任スルノ官記ニハ他ノ國務大臣又ハ內大臣、宮内大臣ヲ任スルノ官記ニハ內大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

前二項ニ依ルモノノ外勅任官ノ官記ニハ御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

奏任官ノ官記ニハ內閣ノ印ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス宮内官ニ付テハ宮内省ノ印ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス

第十五條 親任式ヲ以テ任シタル官ヲ免スルノ辭令書ニハ御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

內閣總理大臣ヲ免スルノ辭令書ニハ他ノ國務大臣又ハ內大臣、宮内大臣ヲ免スルノ辭令書ニハ內大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

前二項ニ依ルモノノ外勅任官ヲ免スルノ辭令書ニハ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

奏任官ヲ免スルノ辭令書ニハ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス宮

内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス

第十六條 爵記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

第十七條 一位ノ位記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

二位以下四位以上ノ位記ニハ御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス五位以下ノ位記ニハ宮内省ノ印ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス

第十八條 爵位ノ返上ヲ命シ又ハ允許スルノ辭令書ニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

第十九條 勳三等功五級以上ノ勳記ニハ親署ノ後國璽ヲ鈐シ勳四等功六級以下ノ勳記ニハ國璽ヲ鈐シ内閣總理大臣旨ヲ奉シ賞勳局總裁ヲシテ年月日ヲ記入シ之ニ署名セシム

勳記ニハ勳章ノ種別ニ從ヒ號數ヲ附シ簿冊ニ記入スル旨ヲ附記シ賞勳局ノ印ヲ鈐シ賞勳局書記官之ニ署名ス

第二十條 記章ノ證狀竝外國勳章及記章ノ佩用免許ノ證狀ニハ内閣總理大臣旨ヲ奉シ賞勳局總裁ヲシテ年月日ヲ記入シ賞勳局ノ印ヲ鈐シ之

ニ署名セシム

證狀ニハ其ノ種別ニ從ヒ號數ヲ附シ簿冊ニ記入スル旨ヲ附記シ賞勳局ノ印ヲ鈐シ賞勳局書記官之ニ署名ス

第二十一條 勳章及記章竝外國勳章及記章ノ佩用免許ノ證狀ヲ褫奪スルノ辭令書ニハ内閣總理大臣旨ヲ奉シ賞勳局總裁ヲシテ年月日ヲ記入シ之ニ署名セシム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
公文式ハ之ヲ廢止ス

○衆議院規則(明治二十三年十一月一日議決)

第一章 成立

第一條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時衆議院ニ集會スヘシ

第二條 集會シタル議員ハ當選證書ト俱ニ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ書記官ハ當選人名簿ニ各員ノ當選證書ヲ對照スヘシ

第三條 午前十時ニ至リ集會者總議員三分ノ一二充チタルトキハ議員ハ

議長候補者ノ選舉ヲ行フヘシ

第四條 議長候補者ノ選舉ハ無名投票ヲ以テシ候補者三名ヲ連記スヘシ
第五條 議員ハ點呼ニ應シ議長席ノ前ニ設ケタル投票函ニ投票ヲ投入シ
其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ

現在議員投票ヲ終リタルトキハ書記官長ハ投票函ノ閉鎖ヲ宣告スヘシ
閉鎖宣告ノ後ハ投票スルコトヲ許サス

第六條 投票終リタルトキハ書記官長書記官ト俱ニ議員ノ面前ニ於テ投
票ノ數ヲ計算シ投票ノ數名刺ノ數ニ超過シタルトキハ更ニ投票ヲ行ハ
シムヘシ

第七條 投票ノ點檢終リタルトキハ書記官長各候補者ノ得點ヲ議員ニ報
告シ投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

第八條 投票ノ過半數ヲ得タル者ナキトキ又ハ過半數ヲ得タル者三人ニ
滿タサルトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者ニ就キ選舉スヘキ定員ノ倍數
ヲ取リ決選投票ヲ行ヒ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之
ヲ定ム

第九條 當選人ニシテ當選ヲ辭スル者アルトキハ更ニ其ノ選舉ヲ行フヘ

シ

第十條 議長候補者ノ選舉終リタルトキハ副議長候補者ノ選舉ヲ行フヘ
シ副議長候補者ノ選舉ハ議長候補者選舉ノ例ニ同シ

第十一條 議長候補者ハ副議長候補者ニ選舉セラレ、コトヲ得

第十二條 選舉ニ付キ疑義ヲ生スルトキハ書記官長ハ集會シタル議員ニ
諮ヒ之ヲ決スヘシ

第十三條 議長副議長ノ候補者定マリタルトキハ書記官長ハ内閣總理大
臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

第十四條 議長副議長任命ノ翌日午前九時議員ハ議場ニ集會スヘシ
書記官長ハ議長及副議長ヲ議院ニ紹介シ議長ヲ導キテ議長席ニ著カシ
ムヘシ

第十五條 議員ノ議席ハ每會期ノ始ニ於テ議長之ヲ定ム但シ必要ト認ム
ルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

議席ニハ各號數ヲ付ス(明治三十七年十二月一日改正)

第十六條 議長ハ議場ニ於テ議員ノ議席ヲ報告シタル後書記官ヲシテ抽
籤セシメ議員ノ部屬ヲ定ム(明治三十七年十二月一日改正)

第十七條 議員ノ部屬ハ每會期ニ之ヲ定メ各部ニ號數ヲ付ス

總議員ヲ九部ニ配分シ均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下每部一員ヲ加フヘシ

議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

第十八條 臨時會ニ於テハ前會ノ議席及部屬ヲ繼續スヘシ

第十九條 各部ハ年長部員ヲ以テ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ

部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

最多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルト

キハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第二十一條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス

理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第二十二條 理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキニ之ヲ代理スヘシ

第二十三條 議席及部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由ヲ政府及

貴族院ニ通報スヘシ

第二十四條 議員一任期ノ第二會期以下ニ於テハ召集ノ期日午前十時ニ

至リ議員總數三分ノ一ニ充チタルトキハ議席及部屬ヲ定メタル後議院

成立ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報スヘシ

第二章 委員

第一節 通則

第二十五條 委員ノ審査ハ議院ノ付託シタル事件ノ外ニ涉ルコトヲ得ス

第二十六條 委員ハ委員會ニ於テ同一事件ニ付幾回タリトモ發言スルコ

トヲ得

第二十七條 委員長ハ委員會ノ會議ヲ整理シ秩序ヲ保持ス

第二十八條 委員會ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルト

キハ委員長ノ決スル所ニ依ル

第二十九條 委員長自ラ討議ニ與カラムトスルトキハ委員中ヨリ代理者

ヲ指名シ委員長席ニ著カシムヘシ

第一節 全院委員

第三十條 全院委員長ノ選舉ハ無名投票ヲ以テ之ヲ行ヒ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者二人ニ就キ更ニ

決選投票ヲ行ヒ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

選舉ニ付キ異議ヲ生スルトキハ議長之ヲ院議ニ諮ヒテ定ムヘシ

第三十一條 全院委員長故障アルトキハ第一部長其ノ職務ヲ行ヒ第一部長亦故障アルトキハ順次ニ第二部長以下之ヲ行フ

第三十二條 全院委員會ハ議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ討論ヲ用

井ス議院ノ決議ヲ以テ之ヲ開ク

第三十三條 全院委員會ヲ開クコトヲ議決シタルトキハ即時ニ開會スヘシ

即時ニ開會セサルノ議決ヲ爲シタルトキハ議長ハ開會ノ期日ヲ定メ議

事日程ニ記載スヘシ

第三十四條 全院委員會ヲ開クトキハ議長其ノ席ヲ退クヘシ

委員長ノ席ハ書記官長ノ席ヲ以テ之ニ充ツ

第三十五條 全院委員會ニ於ケル動議ハ一人以上ノ贊成ニ依リ議題ト爲

スヘシ

第三十六條 全院委員會ハ自ラ其ノ規則ヲ議決スルコトヲ得ス

第三十七條 全院委員會議事ヲ終ルトキハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ其

ノ結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第三十八條 全院委員會ハ自ラ延會スルコトヲ得ス若議事終局セサルト

キハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ議事ノ經過ヲ議院ニ報告スヘシ

此ノ場合ニ於テハ議長ハ更ニ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ

第三十九條 全院委員會ニ於テ議院法若ハ議院規則ニ違ヒ議場ノ秩序ヲ

紊ル者アルトキハ議長ハ委員長ノ請求ヲ待タス其ノ席ニ復シ委員會ヲ

解クコトヲ得

第四十條 全院委員會ノ議決スルコトヲ得サル事件生スルトキハ委員

長ハ議長ノ復席ヲ求メ其ノ席ヲ退クヘシ

第四十一條 全院委員會ニ於テハ書記官書記官長ノ職務ヲ行フ

第三節 常任委員

第四十二條 議院ハ每會期ノ始ニ於テ左ニ列記スル常任委員ヲ選舉ス

一 豫算委員 六十三人

二 決算委員 四十五人

三 懲罰委員 二十七人

四 請願委員 四十五人

(明治三十五年十二月十日改正)

其ノ他議員ノ動議ニ依リ議院ニ於テ必要ト認ムルモノ

第四十三條 常任委員ハ各部ニ於テ無名投票ヲ以テ總議員中ヨリ選舉シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

各常任委員ヲ選舉スルハ議院ノ命スル所ニ依リ各部同一日時ニ於テスヘシ

第四十四條 各部ニ於テ當選人定マリタルトキハ部長ハ之ヲ議長ニ報告スヘシ

第四十五條 數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ其ノ所屬部ノ當選人トス所屬部ノ外ニ於テ數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ部號ノ順序ニ從ヒ其ノ當選人トス

第四十六條 前條又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ其ノ選舉シタル部ニ於テ補闕選舉ヲ行フヘシ

第四十七條 委員ニ選舉セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ任ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十八條 委員長ハ無名投票ヲ以テ互選シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十九條 委員會ハ無名投票ヲ以テ委員中ヨリ一名又ハ數名ノ理事ヲ互選シ委員會議錄及其ノ他文書ノ事ヲ掌ラシム委員長故障アルトキハ理事之ヲ代理スヘシ但シ會議錄及其ノ他文書ノ事ハ書記官ヲシテ之ヲ掌ラシムルコトヲ得

第五十條 議院ニ於テ委員會ノ期日ヲ指定セサルトキハ委員長之ヲ定ム

第五十一條 委員會ハ議院ノ會議時間ニ於テ之ヲ開クコトヲ得ス但シ議院ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 委員會ハ其ノ付託ヲ受ケタル事件ニ關シ意見ヲ有スル議員アルトキハ其ノ意見ヲ聞クコトヲ得

第五十三條 議員委員會議錄及其ノ他參考文書ノ閱覽ヲ求ムル者アルトキハ審査ノ障碍ヲ生セサル限ハ之ヲ許スヘシ但シ議院ノ外ニ携帯スルコトヲ許サス

第五十四條 委員會ノ審査終ルトキハ報告書ヲ作り委員長ヨリ議長ニ提出スヘシ

委員會ノ決議ニ依リ委員長ハ口述ヲ以テ報告スルコトヲ得但シ議院ハ文書ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

委員長ハ委員會ノ決議ヲ經テ其ノ報告ヲ他ノ委員ニ倚託スルコトヲ得

議長ニ於テ特ニ祕密ト認ムル者ノ外委員會ノ報告書ハ印刷シテ豫メ之ヲ議員ニ配付スヘシ

第五十五條 議院ハ期限ヲ定メ委員會ヲシテ審査ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十六條 委員會故ナク其ノ報告ヲ遲延スルトキハ議院ハ改メテ他ノ委員ヲ選任スルコトヲ得

第五十七條 委員會ニ於テ少數ヲ以テ廢棄セラレタル意見ヲ議院ニ提出セムト欲スル者出席委員三分ノ一ニ及フトキハ委員會ノ報告ト俱ニ其ノ意見書ヲ提出スルコトヲ得

第五十八條 委員會ハ委員會議錄ヲ作り出席者ノ氏名表決ノ數決議ノ要領及其ノ他重要ノ事件ヲ記載スヘシ

第五十九條 委員會議錄ハ委員長及理事之ニ署名シ事務局ニ保存スヘシ

第六十條 政府ニ返付スヘキ文書及所有主アルモノヲ除クノ外委員ノ用ニ供シタル文書ハ其ノ任務ヲ終ヘタル後之ヲ事務局ニ保存スヘシ

第六十一條 豫算委員決算委員及請願委員ハ其ノ事務ヲ捷速ナラシムル爲ニ分テ數科ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各科ニ主査ヲ互選スヘシ

各科主査ハ議院ニ於テ委員長ノ報告ヲ補助スルコトヲ得

第四節 特別委員

第六十二條 特別委員ノ數ハ九名トス但シ付託事件ノ種類ニ由リ議院ノ決議ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得

第六十三條 特別委員ハ議院ニ於テ無名投票ヲ以テ連記選舉シ最多數ヲ得タル者ヲ當選人トス同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

議院ハ特別委員ノ選舉ヲ議長又ハ各部ニ委任スルコトヲ得

第六十四條 議院ハ特別委員ニ付託シタル事件ニ連繫スル他ノ事件ヲ併セテ之ニ付託スルコトヲ得

第六十五條 議院ハ特別委員ノ報告ヲ受クルノ後更ニ其ノ事件ヲ同一委員ニ付託シ又ハ他ノ委員ニ付託スルコトヲ得

第六十六條 第四十七條ヨリ第六十條ニ至ルマテノ規定ハ本節ニ適用ス

第二章 議員資格審査

- 第六十七條 議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議ヲ申立ツル者ハ異議申立書及其ノ副本一通ヲ作り署名シテ之ヲ議長ニ差出スヘシ
議長ハ申立書ヲ資格審査委員ニ付シ及其ノ副本ヲ被告議員ニ送達シ期日ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムヘシ
被告議員天災事變及疾病ニ因リ期日内ニ答辯書ヲ差出スコト能ハサリシコトヲ證明スルトキハ議長ハ更ニ期日ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得
- 第六十八條 議長被告議員ノ答辯書ヲ受取リタルトキハ資格審査委員ニ付シ時日ヲ期シテ之ヲ審査セシムヘシ
- 第六十九條 被告議員期日内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ資格審査委員ハ直ニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得
- 第七十條 資格審査委員ハ必要ト認ムルトキハ議長ヲ經由シテ申立議員及被告議員ヲ召喚訊問スルコトヲ得
- 第七十一條 委員其ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後院議ニ付スヘシ

第七十二條 被告議員ハ自ラ議院ニ辯明シ又ハ他ノ議員ヲシテ代リテ辯明セシムルコトヲ得

第四章 開議散會及延會

- 第七十三條 會議ハ通常午後一時ニ始ム
- 第七十四條 議事日程ニ掲ケタル議事ヲ終リタルトキハ議長ハ議院ニ諮ハスシテ散會ヲ宣告ス議事未タ終ラサルモ午後六時ニ至ルトキハ議長ハ延會ヲ宣告スルコトヲ得但シ緊急ノ議事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第七十五條 議事開始ノ時刻ニ至ルトキハ議長其ノ席ニ著キ諸般ノ通信ヲ報告シテ後ニ會議ヲ開クコトヲ宣告ス
- 議長開議ヲ宣告セサル間ハ何人モ議事ニ付發言スルコトヲ得ス
- 第七十六條 出席議員若定數ニ充タサルトキハ議長ハ相當ノ時間ヲ經テ之ヲ計算セシメ計算二回ニ至リ仍定數ニ充タサルトキハ延會ヲ宣告スヘシ
- 第七十七條 議長散會延會又ハ中止ヲ宣告シタル後ハ何人モ議事ニ付發言スルコトヲ得ス

第五章 議事日程

第七十八條 議長ハ會議ノ終ニ於テ次會ノ議事日程ヲ議院ニ報告スヘシ
第七十九條 凡テ議院ノ會議ニ付スヘキ事件及次序竝開議ノ日時ハ之ヲ
議事日程ニ記載スヘシ

第八十條 議事日程ハ官報ニ掲載シ及議員ニ配付スヘシ

第八十一條 議事日程ニ某議案ノ會議時刻ヲ定メタル場合ニ於テ其ノ時
刻ニ至リタルトキハ議長ハ會議中ノ議事ヲ中止シテ時刻ヲ定メタル事
件ノ會議ニ移ルヘシ

第八十二條 議事日程ニ記載シタル事件アルニ拘ラス他ノ緊急事件ニ付
開議ノ動議ヲ起ス者アルトキ又ハ議長自ラ緊急事件ト認ムルトキハ討
論ヲ用弗スシテ議院ニ諮ヒ議事日程ヲ變更スルコトヲ得

第八十三條 議事日程ニ指定シタル日ニ於テ其ノ記載事件ノ會議ヲ開ク
コト能ハサルトキ又ハ會議終局ニ至ラサルトキハ議長ハ更ニ其ノ日程
ヲ定ムヘシ

第八十四條 貴族院ニ於テ既ニ會議ニ付シタル議案ト同一ナル事件ヲ議
事日程ニ記載スルコトヲ得ス但シ兩議院ノ議決ヲ要セサルモノハ此ノ

限ニ在ラス

第八十五條 貴族院ヨリ提出シタル議案ハ政府ヨリ提出シタル議案ニ次
キ議事日程ニ記載スヘシ

第六章 議事

第一節 發議及動議

第八十六條 議員法律案又ハ上奏案建議案ヲ發議セムトスル者ハ其ノ案
ヲ具ヘ理由ヲ付シ定規ノ贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ差出シ議長
ハ印刷シテ之ヲ各議員ニ配付スヘシ

第八十七條 議院法及此ノ規則ニ於テ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外凡
ソ動議ハ一人以上ノ贊成者ヲ待チテ議題ト爲スヘシ

第二節 讀會

第八十八條 第一讀會ハ議案ヲ各議員ニ配付シタル後少クトモ二日ヲ隔
テ之ヲ開クヘシ但シ緊急事件ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十九條 第一讀會ニ於テ議案ヲ朗讀シタル後國務大臣政府委員又ハ
發議者ハ其ノ趣旨ヲ辯明スルコトヲ得

議員ハ議案ニ對シ疑義アルトキハ國務大臣政府委員又ハ發議者ニ説明ヲ求ムルコトヲ得

議長ハ便宜議案ノ朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第九十條 前條ノ手續ヲ終リタルトキハ政府又ハ貴族院ヨリ提出シタル議案ハ之ヲ委員ニ付託スヘシ

議院ハ委員ノ報告ヲ待チ大體ニ付討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ

議員ヨリ提出シタル議案ハ大體ニ付討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ若委員ニ付託スルノ動議アリテ之ヲ可決シタルトキハ其ノ報告ヲ待チ第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ

第二讀會ヲ開クヘカラスト決シタルトキハ其ノ議案ヲ廢棄シタルモノトス

第九十一條 第二讀會ハ第一讀會ヲ終リタル後少クトモ二日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第一讀會ト同日ニ之ヲ開クコトヲ得

第九十二條 第二讀會ニ於テハ議案ヲ逐條朗讀シテ之ヲ議決スヘシ議長ハ便宜議案ノ朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第九十三條 第二讀會ニ於テハ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ提出スルコトヲ得

議員ハ讀會ノ前豫メ修正案ヲ議長ニ提出スルコトヲ得

第九十四條 委員ノ報告ニ係ル修正ハ贊成ヲ待タスシテ議題ト爲スヘシ

第九十五條 議長ハ逐條審議ノ順序ヲ變更シ又ハ數條ヲ連テ又ハ一條ヲ分割シテ討論ニ付スルコトヲ得但シ議員異議ヲ提出スル者アルトキハ

其ノ贊成者アルヲ待チ討論ヲ用非スシテ之ヲ決スヘシ

第九十六條 第二讀會ノ終リニ於テ議院ハ便宜ニ依リ議案ヲ委員ニ付託シテ修正決議ノ條項及字句ヲ整理セシムルコトヲ得

第九十七條 第三讀會ハ第二讀會ノ後少クトモ二日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第二讀會ト同日ニ之ヲ開クコトヲ得

第九十八條 第三讀會ニ於テハ議案全體ノ可否ヲ議決スヘシ

第九十九條 第三讀會ニ於テハ文字ヲ更正スルノ外修正ノ動議ヲ爲スコトヲ得ス但シ議案中互ニ抵觸スル事項又ハ現行法律ト抵觸スル事項アルコトヲ發見シタルトキ必要ノ修正ヲ動議スルハ此ノ限ニ在ラス

第三節 討論

第一百條 議事日程ニ記載シタル議題ニ對シ發言セムト欲スル者ハ會議開始ノ前ニ豫メ其ノ氏名及反對又ハ贊成ノ旨ヲ記シテ書記官ニ通告スルコトヲ得

第一百一條 書記官ハ前條通告ノ順序ニ由リ之ヲ發言表ニ記入シ議長ニ報告スヘシ議長ハ討論ヲ始ムルニ當リ發言表ニ依リ反對者ヲシテ最初ニ發言セシメ次ニ贊成者及反對者ヲ可成交互ニ指名シテ發言セシムヘシ

前項ノ指名ニ應セサル者ハ通告ノ效ヲ失フ

第一百二條 通告ヲ爲ササル議員ハ通告ヲ爲シタル議員總テ發言ヲ終リタル後ニ非サレハ發言ヲ求ムルコトヲ得ス

通告ヲ爲シタル甲方ノ議員未タ發言ヲ終ラスト雖乙方ノ議員既ニ發言ヲ終リタルトキハ通告ヲ爲ササル乙方ノ議員發言ヲ求ムルコトヲ得

第一百三條 通告ヲ爲サスシテ發言セムト欲スル者ハ起立シテ議長ト呼ビ及自己ノ氏名若ハ番號ヲ告ケ議長ノ許可ヲ待テ發言スヘシ

第一百四條 二人以上起立シテ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ先起立者ト認ム

ル者ヲ指シテ發言セシメ同時ノ起立ナルトキハ議長ノ指定スル所ニ依ル

第一百五條 延會又ハ議事中止ノトキ發言ヲ終ラサル議員ハ更ニ討論ヲ始ムルトキニ於テ前ノ發言ヲ繼續スルコトヲ得

第一百六條 凡テ發言ハ演壇ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ極メテ簡短ナル發言及特ニ議長ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第一百七條 議長ハ何時ニテモ議席ニ於テ發言スル議員ヲシテ演壇ニ登ラシムルコトヲ得

第一百八條 討論ハ議題外ニ涉ルコトヲ得ス

第一百九條 議員ハ同一ノ議題ニ付發言二回ニ及フコトヲ得ス但シ質疑應答又ハ注意ノ喚起ハ此ノ限ニ在ラス

第一百十條 委員長又ハ報告者ハ其ノ報告ノ趣旨ヲ辯明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

國務大臣政府委員發議者及動議者ハ議案又ハ發議動議ノ趣旨ヲ辯明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

第一百一十條 資格ニ付異議ヲ申立ラレタル議員又ハ懲罰事犯アリト告ケラレタル議員ハ辯明ノ爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

第一百十二條 會議ニ於テ意見書又ハ理由書ヲ朗讀スルコトヲ得ス但シ引證若ハ報告ノ爲ニ文書ヲ朗讀スルハ此ノ限ニ在ラス

第一百十三條 議長自ラ討論ニ與カラムトスルトキハ豫メ之ヲ通告シ議席ニ著キ副議長ヲシテ議長席ニ著カシムヘシ

第一百十四條 議長討論ニ與カリタルトキハ其ノ問題ノ表決ニ至ル迄議長席ニ復スルコトヲ得ス

第一百十五條 議長ハ討論ノ終局ヲ宣告ス

第一百十六條 發言者未タ盡キスト雖議員討論終局ノ動議ヲ提出シ二十人以上ノ賛成アルトキハ議長ハ議院ニ諮ヒ討論ヲ用弗スシテ之ヲ決スヘシ(明治二十四年十一月二十七日改正)

第一百十七條 議院規則ノ疑義ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

第四節 修正

第一百十八條 議案ニ對スル修正ノ動議ハ其ノ案ヲ具ヘ議長ニ提出スヘシ

第一百十九條 議員ノ提出シタル修正案ハ委員會ノ提出シタル修正案ニ先チテ決ヲ取ルヘシ

第一百二十條 同一ノ議題ニ付數箇ノ修正案提出セラレタル場合ニ於テ議長ハ表決ノ順序ヲ定ム其ノ順序ハ原案ニ最遠キモノヨリ先ニス若議員ノ異議アルトキハ其ノ賛成者アルヲ待チ討論ヲ用弗スシテ之ヲ決スヘシ

第一百二十一條 既ニ成立シタル修正ノ動議ハ議院ノ許可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ撤回スルコトヲ得ス

一議員ノ撤回シタル動議ハ他ノ議員定規ノ賛成者ト共ニ之ヲ繼續スルコトヲ得

第一百二十二條 修正案總テ否決セラレタルトキハ原案ニ就テ決ヲ取ルヘシ

第一百二十三條 修正案原案共ニ過半數ノ賛成ヲ得サル場合ニ當リ議院ニ於テ廢棄スヘカラサルモノト議決スルトキハ特ニ委員ヲシテ其ノ案ヲ起サシメ會議ニ付スルコトヲ得

第五節 表決

第一百二十四條 表決ノ際議場ニ現在セサル議員ハ表決ニ加ハルコトヲ得

第二百二十五條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ表決ニ付スヘキ問題ヲ議院ニ宣告スヘシ

議長表決ニ付スヘキ問題ヲ宣告シタル後ハ何人モ議題ニ付發言スルコトヲ得ス

第二百二十六條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ問題ヲ可トスル者ヲ起立セシメ起立者ノ多數ヲ認定シ可否ノ結果ヲ宣告スヘシ其ノ結果疑ハシト認ムルトキ又ハ議員議長ノ宣告ニ對シ異議ヲ申立二十人以上ノ贊成アルトキハ議長ハ書記官ニ命シ議員ノ氏名若ハ番號ヲ點呼セシメ議員ハ起立シテ可否ヲ表スヘシ

點呼ノ結果ニ付仍議員ヨリ異議ヲ申立三十人以上ノ贊成アルトキハ議長ハ記名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ(明治二十四年十一月二十七日改正)

第二百二十七條 議長必要ト認ムルトキ又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ起立ノ方法ヲ用弗スシテ記名若ハ無名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第二百二十八條 記名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白色票ニ問題ヲ否トスル議員ハ青色票ニ各々其ノ氏名ヲ記シ投票函ニ投入スヘシ

第二百二十九條 無名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白球ヲ問題ヲ否トスル議員ハ黒球ヲ特ニ設ケタル函ニ投入シ同時ニ其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ若球數ト名刺ノ數ト同シカラサルトキハ再投票ヲ行フ

第二百三十條 點呼又ハ記名若ハ無名投票ヲ行フトキハ議場ノ入口ヲ閉鎖スヘシ

第二百三十一條 總テ投票ヲ終リタルトキハ議長ハ其ノ結果ヲ宣告スヘシ

第六節 豫算會議

第二百三十二條 議員ハ自己表決ノ更正ヲ求ムルコトヲ得ス

第二百三十三條 豫算委員豫算案ヲ數部ニ分割シタルトキハ每部ノ審査終ルニ從ヒ會議ヲ開クコトヲ得
豫算各部ノ議事ヲ終リタルトキハ總額ニ付確定ノ議決ヲ爲スヘシ
第二百三十四條 豫算ノ會議ニ於テ更ニ審査ヲ必要トスル事項ヲ發見シタルトキハ其ノ事項ヲ限リ再ヒ豫算委員ニ付託シ之ヲ審査セシムルコトヲ得

第七章 議事錄決議錄及速記錄(明治二十四年十月五日改正)

第一節 議事錄

- 第三百三十五條 議事錄ハ左ノ事項ヲ記載ス
 - 一 議院成立及開會閉會ニ關スル事項及年月日時
 - 二 開議延會中止及散會ノ月日時
 - 三 出席國務大臣及政府委員ノ氏名
 - 四 勅語及勅旨
 - 五 議長及委員長報告ノ件
 - 六 會議ニ付シタル議案ノ題目
 - 七 議題ト爲リタル動議及動議者ノ氏名
 - 八 決議ノ事件
 - 九 表決及可否ノ數ヲ計算シタルトキハ其ノ數
 - 十 議院ニ於テ必要ト認メタル事項
- 第三百三十六條 決議錄ハ議場ノ決議ヲ記載ス(明治二十四年十二月五日追加)
- 第三百三十七條 議員議事錄決議錄ニ記載シタル事實ニ對シテ異議アルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ答辯セシムヘシ議員其ノ答辯ニ服セス又ハ

議長ノ處置ニ對シ不服ナルトキハ議長ハ討論ヲ用弗スシテ議院ノ決ヲ取ルヘシ

第三百三十八條 議事錄決議錄ハ議長又ハ當日ノ會議ヲ整理シタル副議長若ハ假議長及書記官長又ハ其ノ代理タル書記官之ニ署名スヘシ

第一節 速記錄

- 第三百二十九條 議事速記錄ハ速記法ニ依リ議事ヲ記載ス
- 第三百四十條 議院法第八十七條ニ依リ議長取消ヲ命シタル發言ハ速記錄ニ記載セス
- 第三百四十一條 演說シタル議員ハ速記錄配付ノ當日午後七時迄ニ訂正ヲ求ムルコトヲ得但シ訂正ハ字句ニ止マリ演說ノ趣旨ヲ變更スルコトヲ得ス
- 速記錄ノ訂正ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ議長ハ贊成者アルヲ待チ討論ヲ用弗スシテ議院ノ決ヲ取ルヘシ

第八章 質問

第四百四十二條 議員政府ニ對スル質問ニ付國務大臣ノ答辯其ノ要領ヲ得

サルトキハ議場ニ出席ヲ求メ更ニ精細ノ質問ヲ爲スコトヲ得
第四百十三條 質問ニ對スル答辯若ハ答辯ヲ爲ササル理由ニ付動議ヲ提出スルモノアリ三十人以上ノ賛成アルトキハ之ヲ議題ト爲スコトヲ得

第九章 上奏建議及議案ノ奏上

第四百十四條 議院上奏シ又ハ勅諭ニ對シ奉答ノ敬禮ヲ表セムトスルトキハ議長ハ宮内大臣ニ依リ謁見ヲ乞ヒ勅許ヲ經テ後參内スヘシ
第四百十五條 議院ノ建議書ハ議長ヨリ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
第四百十六條 政府又ハ貴族院ヨリ提出シタル議案ヲ可決シタルトキハ左ノ言辭ヲ用井内閣總理大臣ヲ經由シテ奏上スヘシ
衆議院ハ兩院ノ議ヲ經タル某案ノ裁可ヲ奉請ス
第四百十七條 政府ヨリ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ左ノ言辭ヲ用井内閣總理大臣ヲ經由シテ奏上スヘシ
衆議院ハ某案ニ付テ更ニ廟議ヲ盡サレムコトヲ奉請ス

第十章 請願

第四百十八條 議院ハ請願者ノ住所身分職業年齢ヲ記シ各自署名捺印シタル請願書ニ非サレハ受理セス請願者自ラ署名スルコト能ハス他人ヲシテ代署セシムルトキハ代署シタル人其ノ由ヲ附記シ之ニ署名捺印スヘシ
第四百十九條 法人ノ請願書ハ代表者之ニ署名シ法人ノ印章ヲ捺スヘシ
第四百十條 請願書ハ普通ノ邦文ヲ用ウヘシ若外國語ヲ用井サルヲ得サルトキハ之ニ註解ヲ附スヘシ
第四百十一條 請願ヲ紹介スル議員ハ請願書ノ表紙ニ紹介議員某ト書スヘシ
第四百十二條 請願委員ハ請願提出ノ順序ニ依リ之ヲ審査スヘシ
第四百十三條 議員簡短ナル説明書ヲ以テ一ノ請願ニ對シ至急ノ審査ヲ議院ニ請求スルトキハ議長ハ討論ヲ用井スシテ議院ノ決ヲ取り時日ヲ限リ請願委員ニ付託スヘシ
第四百十四條 請願文書表ニハ請願ノ趣旨提出ノ年月日請願者ノ住所身分職業氏名紹介議員ノ氏名ヲ記スヘシ
請願者數名アルトキハ請願者某及外幾名ト記スヘシ
第四百十五條 請願文書表ハ議長之ヲ印刷セシメテ毎週一回議員ニ配付

スヘシ

請願書ハ議院ノ決議ニ依ルニ非サレハ印刷配付セス

第一百五十六條 請願委員ハ審査ノ結果ニ從ヒ左ノ區別ヲ爲シ其ノ大要ヲ

記シ議院ニ報告スヘシ

一 議院ノ會議ニ付スヘシトスルモノ

二 議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルモノ

第一百五十七條 請願委員ハ議院ノ會議ニ付スヘシトスルノ請願ニ付テハ

特別ノ報告ヲ爲スヘシ

第五十八條 請願委員ニ於テ議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルノ報

告ニ對シ一週間内ニ議員ヨリ會議ニ付スルノ要求ヲ爲ス者ナキトキハ

委員ノ決議ヲ以テ確定トス

第五十九條 請願書ハ會議ニ付スルモ之ヲ朗讀セス但シ議員朗讀ヲ要

求スル者アルトキハ議院ハ討論ヲ用弗スシテ之ヲ決スヘシ

第十一章 請暇及辭職

第一節 請暇

第六十條 議員事故ノ爲ニ數日間議院ニ出席スルコト能ハサルトキ

ハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ豫メ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ公務又ハ疾病若ハ一時已ムヲ得サル事故アリテ議院ニ出席スルコトヲ得サルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ闕席届書ヲ差出スヘシ

第六十一條 請暇ノ許可ヲ得議院所在ノ地ヲ離ルル者ハ其ノ出發及歸著ノ時ニ於テ議長ニ届出ヘシ

第六十二條 議員請暇ノ許可ヲ得タル日限ニ至リ事故ニ由リ仍議院ニ

出席スルコトヲ得サルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ更ニ請暇書

ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ但シ臨時事變ノ爲ニ此ノ手續ヲ爲ス能ハサル

トキハ後日其ノ理由ヲ申告シ承認ヲ受クヘシ

第六十三條 請暇ノ許可ヲ得タル議員其ノ請暇ノ期限内ニ議院ニ出席

スルトキハ請暇許可ノ效ヲ失フ

第二節 辭職

第六十四條 議員辭職セムトスルトキハ辭表ヲ議長ニ差出スヘシ

第六十五條 議長ハ辭表ヲ朗讀セシメ討論ヲ用弗スシテ其ノ許否ヲ議

決セシムヘシ其ノ閉會中ニ於テハ議長之ヲ處分シ次會期ノ始ニ於テ議

院ニ報告スルコトヲ得

第六十六條 辭表中不敬又ハ無禮ノ文辭アリト認ムルトキハ議長ハ朗讀ヲ禁止シテ其ノ要領ヲ議院ニ報告スルコトヲ得

第六十七條 前條ノ場合ニ於テハ議長ハ其ノ辭表ヲ懲罰委員ニ付シテ審査セシムルコトヲ得

第十一章 警察及秩序

第一節 警察

第六十八條 議長ハ守衛及警察官吏ヲ指揮シテ議院内部ノ警察權ヲ施行ス

第六十九條 守衛ハ議事堂内警察官吏ハ議事堂外ノ警察ヲ爲ス但シ議長ノ特ニ命シタル場合ニ於テハ警察官吏議事堂内ノ警察ヲ行フコトアルヘシ

第七十條 院内ノ防火點燈導水煖爐及室内掃除ノ事ハ守衛之ヲ監督ス

第七十一條 議院内部ニ於テ重罪輕罪ノ現行犯人アルトキハ守衛又ハ警察官吏ハ之ヲ逮捕シテ議長ノ命令ヲ請フヘシ但シ議場ニ於テハ議長ノ命令ヲ待タスシテ逮捕スルコトヲ得ス

第二節 議場内ノ秩序

七十二條 議場ニ入ルモノハ羽織袴「フロックコート」又ハ「モーニングコート」ノ外總テ略服ヲ著シ又ハ異様ノ服裝ヲ爲スヘカラス

七十三條 議場ニ入ルモノハ外套傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス帽子ヲ著スヘカラス

七十四條 議場内ニ於テ吸煙スヘカラス

七十五條 議事内ハ參考ノ爲ニスルモノヲ除クノ外新聞紙及書籍ヲ閱讀スルコトヲ得ス

七十六條 何人モ議事中贊聲否聲ヲ發シ又ハ喧噪シテ他人ノ演說及朗讀ヲ妨クルコトヲ得ス

七十七條 散會ニ際シ議員ハ議長退席ノ後ニ非サレハ退席スルコトヲ得ス

七十八條 議長號鈴ヲ鳴ラストキハ何人モ總テ沈黙スヘシ

七十九條 凡ソ秩序ノ問題ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

第十二章 傍聽

第一百八十條 傍聽席ヲ分テ皇族席、外國交際官席、貴族院議員席、公衆席及新聞記者席トス

第一百八十一條 外國交際官ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ外務省ノ照會ニ依リ書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ其ノ員數ヲ限リ傍聽券ヲ該省ニ送付スヘシ

第一百八十二條 官吏ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ所屬官廳ノ照會ニ依リ書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ其ノ員數ヲ限リ傍聽券ヲ其ノ官廳ニ送付スヘシ

第一百八十三條 公衆ノ傍聽ヲ求ムル者ハ議員ノ紹介ニ依ルヘシ 書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ豫メ公衆傍聽券ノ員數ヲ定メ之ヲ部長ニ送付シ部長ハ之ヲ部員ニ配付ス

第一百八十四條 在東京日刊新聞社ニハ一會期ニ通スル傍聽券二十五枚在 地方日刊新聞社ニハ十枚ヲ交付シ各社ノ協議ヲ以テ之ヲ分配セシムヘシ

第一百八十五條 議事開始ノ後一時間ヲ經過シ仍傍聽席空位アリテ議員ノ

紹介アルトキハ書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ傍聽券ヲ交付スルコトヲ得

第一百八十六條 議員傍聽人ヲ紹介スルトキハ傍聽人紹介人トモ其ノ氏名ヲ傍聽券ニ記入スヘシ

第一百八十七條 傍聽人ハ傍聽券ヲ守衛ニ示シ其ノ指示スル所ノ席ニ著クヘシ

第一百八十八條 凡ソ傍聽席ニ在ル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 羽織若ハ袴又ハ洋服ヲ著スヘシ
 - 二 帽子又ハ外套ヲ著スヘカラス
 - 三 傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス
 - 四 飲食又ハ吸煙スヘカラス
 - 五 議員ノ言論ニ對シ可否ヲ表スヘカラス
 - 六 喧擾ニ涉リ議事ヲ妨害スヘカラス
- 第一百八十九條 戎器兇器ヲ携持シタル者及酩酊シタル者ハ傍聽席ニ入ルコトヲ許サス

第一百九十條 何等ノ事由アルモ傍聽人ハ議場ニ入ルコトヲ得ス

ニ由リ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルトキハ議長ハ守衛ヲシテ其ノ命令ヲ執行セシムヘシ

第十四章 懲罰

第九十二條 會議ニ於テ懲罰事犯アルトキハ議長ハ會議ヲ中止シ又ハ犯人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十三條 委員會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長ハ委員會ヲ中止スルコトヲ得

第九十四條 部ニ於テ懲罰事犯アルトキ部長ノ處分ハ委員長ノ例ニ同シ

第九十五條 委員長又ハ部長ニ於テ懲罰事犯ト認メサル事件ニ付テモ委員又ハ部員ハ議院法第九十八條ニ依リ懲罰ノ動議ヲ議院ニ提出スルノ權ヲ失ハス

第九十六條 議院法第九十八條第一項ノ場合ニ於テハ議長ハ討論ヲ用非スシテ議院ノ決ヲ取り之ヲ懲罰委員ニ付スヘシ

第九十七條 懲罰事犯ノ議事ハ秘密會議ヲ以テス
第九十八條 議員ハ自己ノ懲罰事犯ノ會議ニ列席スルコトヲ得ス但シ

議長ノ許可ヲ經テ自ラ辯明シ又ハ他ノ議員ヲシテ代リテ辯明セシムルコトヲ得

第九十九條 懲罰委員ハ議長ヲ經由シテ本人及關係議員ヲ召喚訊問スルコトヲ得

第一百條 議長ノ制止又ハ取消ノ命ニ從ハサル者ハ議長議院法第八十七條ニ依リ之ヲ處スルノ外仍懲罰事犯トシテ懲罰委員ニ付スルコトヲ得

第一百一條 公開議場ニ於テ謝辭ヲ表セシメトスルトキハ懲罰委員ハ謝辭ノ要領ヲ起草シ其ノ報告ト共ニ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第一百二條 議院ノ命令ニ抵抗シ又ハ議長ヲ侮辱シタル者及同會期中譴責セララルルコト三回ニ至リ更ニ譴責ニ當ルヘキ事犯アル者ハ出席ヲ停止スルコトヲ得

第一百三條 出席停止ハ二週間ヲ超ユルコトヲ得ス

第一百四條 出席ヲ停止セラレタル者委員ナルトキハ其ノ任ハ解ケタルモノトス

第一百五條 出席ヲ停止セラレタル者其ノ停止期限内ニ議場ニ入ルトキハ議長ハ直ニ退去ヲ命シ其ノ命ニ從ハサルトキハ必要ノ處分ヲ爲シ更

ニ懲罰委員ニ付スヘシ

第二百六條 凡ソ議院ノ騷擾ヲ醸シ又ハ議院ノ體面ヲ汚スヘキ所行ニシテ其ノ情重キ者ハ出席ヲ停止シ又ハ除名スルコトヲ得

第二百七條 議院懲罰ヲ議決シタルトキハ議長ハ公開議場ニ於テ之ヲ宣告ス

第二百八條 議長ハ懲罰事犯ト認ムル所ノ言論ノ一部又ハ全部ヲ公布スルコトヲ禁スルコトヲ得

議院ニ於テ懲罰事犯ナシト議決シタルトキハ議長ノ命令ハ自ラ消滅ス

第十五章 貴族院ニ對スル關係

第二百九條 議案ヲ貴族院ニ移ストキハ議長ハ書記官長ヲシテ之ヲ貴族院議長ニ傳達セシム

第二百十條 貴族院ヨリ議案ヲ受取リタルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告スヘシ

第二百十一條 協議委員ノ選舉ハ第六十三條ノ例ニ依ル

第二百十二條 議院法第五十五條ニ依リ貴族院ヨリ回付シタル修正案ヲ議シ及協議會ノ報告ヲ議スルニハ三讀會ヲ經ルヲ要セス

第二百十三條 協議會ニ於ケル衆議院ノ委員ハ其ノ報告委員ヲ互選スルコトヲ得

第二百十四條 協議委員ノ數協議會ノ定數及決議ノ方法竝協議會議長ノ權限ハ議院法第六十一條ニ依リ委員ヲ派シ兩院協議シテ之ヲ定ムヘシ

○法律ノ制定ニ關スル請願取扱規則

(明治三十九年三月廿二日衆議院議決)

第一條 請願委員會ニ於テ法律ノ制定ニ關スル請願ニシテ採擇スヘキモノト決シタルトキハ法律案ヲ具シテ報告スルコトヲ得

第二條 前條ノ法律案ハ請願委員長ヲ以テ提出者トス

○投票ニ關スル規則

(明治四十二年十二月二十五日衆議院議決)

選舉又ハ表決ノ爲投票ヲ行フ場合ニハ議長ハ便宜議員ヲシテ各議席ニ於テ投票ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ議長ハ書記官ヲ議席ニ派遣シ其ノ投票ヲ受領セシム

○衆議院議員選舉法

(明治三十三年三月法律第七十三號)

第一編 法律ノ制定ニ關スル請願取扱規則、投票ニ關スル規則、衆議院議員選舉法

第一章 選舉ニ關スル區域

- 第一條 衆議院議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス
- 選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員ノ數ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二條 投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル
- 特別ノ事情アル市町村ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設クル事ヲ得
- 前項ノ場合ニ於テ投票ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キトキハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得
- 第三條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス
- 第四條 市町村長ハ投票管理者トナリ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス
- 第五條 開票區ハ郡市ノ區域ニ依ル
- 郡市長ハ開票管理者トナリ開票ニ關スル事務ヲ擔任ス
- 第六條 地方長官ハ選舉長トナリ選舉ニ關スル事務ヲ統轄ス
- 第七條 行政區畫ノ變更ニ因リ選舉區ニ異動ヲ生スルモ現任議員ハ其ノ職ヲ失フコトナシ

第二章 選舉權及被選舉權

- 第八條 左ノ要件ヲ具備スル者ハ選舉權ヲ有ス
 - 一 帝國臣民タル男子ニシテ年齡滿二十五年以上ノ者
 - 二 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上其ノ選舉區内ニ住所ヲ有シ仍引續キ有スル者
 - 三 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上地租十圓以上又ハ滿二年以上地租以外ノ直接國稅十圓以上若ハ地租ト其ノ他ノ直接國稅トヲ通シテ十圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者
 - 家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス
- 第九條 前條ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ行政區畫變更ノ爲中斷セラルルコトナシ
- 第十條 帝國臣民タル男子ニシテ年齡滿三十年以上ノ者ハ被選舉權ヲ有ス
- 第十一條 左ニ掲クル者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス
 - 一 禁治產者及準禁治產者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三 剝奪公權者及停止公權者

四 削除(明治四十三年十月二十六日改正)

第十二條 華族ノ戸主ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者又ハ官立公立私立學校ノ學生、生徒亦前項ニ同シ

第十三條 神官、神職、僧侶其ノ他諸宗教師、小學校教員ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後三箇月ヲ經過セサル者亦同シ

政府ノ請負ヲ爲ス者又ハ主トシテ政府ノ請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ被選舉權ヲ有セス(明治四十一年四月二十五日改正)

第十四條 選舉事務ニ關係アル官吏、吏員ハ其ノ選舉區内ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後三箇月ヲ經過セサル者亦同シ

第十五條 宮内官、判事、檢事、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計検査官、收稅官吏及警察官吏ハ被選舉權ヲ有セス

第十六條 前條ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ナキ限ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得

ヲ得

第十七條 府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三章 選舉人名簿

第十八條 町村長ハ毎年十月一日ノ現在ニ依リ其ノ町村内ニ住所ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調査シ選舉人名簿正副二本ヲ調製シ十月十五日迄ニ郡長ニ送付スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ送付シタル名簿ヲ調査シ其ノ修正スヘキモノハ修正ヲ加ヘ副本ハ十月三十一日迄ニ之ヲ町村長ニ返付スヘシ

市長ハ毎年十月一日ノ現在ニ依リ其ノ市内ニ住所ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調査シ十月三十一日迄ニ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名、官位、職業、身分、住所、生年月、納稅額及納稅地等ヲ記載スヘシ

第十九條 選舉人其ノ住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ證明ヲ得テ十月五日迄ニ其ノ住所地ノ市町村長ニ届出ツヘシ其ノ期日迄ニ届出ヲ爲サルルトキハ其ノ納稅ハ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セス

第二十條 郡長、市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間其ノ廳又ハ地方長官ノ許可ヲ得タル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ縦覽ニ供スヘシ

第二十一條 選舉人選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ理由書及證憑ヲ具ヘテ之ヲ郡市長ニ申立ツルコトヲ得

第二十二條 選舉人正當ノ事故ニ因リ第十九條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ選舉人名簿ニ登録セラレサルトキ亦前條ノ例ニ依ル

第二十三條 縦覽期限ヲ經過シタルトキハ前二條ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條 郡市長ニ於テ第二十一條第二十二條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉人名簿ヲ修正シ其ノ由ヲ申立人及關係人ニ通知シ併セテ其ノ要領ヲ告示スヘシ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ之ヲ申立人ニ通知スヘシ

前項ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ郡長ハ其ノ由ヲ本人住所地ノ町村長ニ通知スヘシ

第二十五條 前條郡市長ノ決定ニ不服アル申立人及關係人ハ郡市長ヲ被告トシ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ地方裁判所ニ出訴スル

コトヲ得

前項地方裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十六條 町村長ハ十一月二十日ヨリ十二月十日迄ノ間ニ其ノ管理ニ屬スル選舉人名簿ヲ郡長ニ送付スヘシ

前項名簿ノ送付ヲ受ケタル郡長ハ之ヲ調査シ其ノ修正スヘキモノハ修正ヲ加ヘ十二月二十日迄ニ之ヲ町村長ニ返付スヘシ

第二十七條 選舉人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定ス

選舉人名簿ハ次年ノ選舉人名簿確定ノ日迄之ヲ据置クヘシ但シ確定判決ニ依リ修正スヘキモノハ郡市長ニ於テ直ニ之ヲ修正シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

前項ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ郡長ハ其ノ由ヲ本人住所地ノ町村長ニ通知シ副本ヲ修正セシムヘシ

天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ必要アルトキハ更ニ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

前項選舉人名簿ノ調製及其ノ期日、縦覽確定ニ關スル期日、期間等ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四章 選舉、投票及投票所

第二十八條 總選舉ノ期日ハ勅命ヲ以テ之ヲ定メ少クトモ三十日前ニ之ヲ公布ス

第二十九條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

第三十條 投票所ハ市役所、町村役場又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ投票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第三十一條 投票管理者ハ選舉ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ投票所ヲ其ノ投票區内ニ告示スヘシ

第三十二條 郡市長ハ各投票區内ニ於ケル選舉人中ヨリ三名以上五名以下ノ投票立會人ヲ選任シ選舉ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十三條 投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ

第三十四條 選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票簿ニ捺印シ投票スヘシ

投票管理者ハ投票ヲ爲サムトスル選舉人ノ本人ナルヤ否ヲ確認スルコト能ハサルトキハ其ノ本人ナル旨ヲ宣言セシムヘシ其ノ宣言ヲ爲ササル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條 投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付スヘシ

第三十六條 選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第三十七條 選舉人名簿ニ登録セラレサル者ハ投票スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登録セラルヘキ確定判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲシテ投票セシムヘシ

第三十八條 選舉人名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者亦前項ニ同シ

第三十九條 投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル町村ノ選舉人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ

投票ヲ爲サシムヘシ
前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ
第一項ニ掲クル者ニ於テ異議アル町村ノ選舉人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

第四十條 投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ由ヲ告ケテ投票所ノ入口ヲ鎖シ投票所ニ在ル選舉人ノ投票結了スルヲ待テ投票函ヲ閉鎖スヘシ

投票函閉鎖後ハ投票スルコトヲ得ス

第四十一條 投票管理者ハ投票録ヲ作り投票ニ關スル顛末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第四十二條 町村ニ於テハ投票管理者ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日迄ニ投票函、投票録及選舉人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘシ
第四十三條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニシテ前條ノ期日ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アルトキハ地方長官ハ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ開票ノ期日迄ニ其ノ投票函、投票録及選舉人名簿ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十四條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ選舉長ニ其ノ由ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ選舉長ハ更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ

但シ其ノ期日ハ少クトモ五日目前ニ投票區内ニ告示セシムヘシ

第四十五條 同一選舉區ニ於テ同時ニ二人以上ノ議員ヲ選舉スルトキハ選舉ノ種類如何ニ拘ラス第二十九條及第三十六條ノ例ニ依ル

第四十六條 何人ト雖選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ陳述スルノ義務ナシ

第五章 投票所取締

第四十七條 投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第四十八條 選舉人、投票所ノ事務ニ從事スル者、投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者及警察官吏ノ外投票所ニ入ルコトヲ得ス

第四十九條 投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧騒ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ投票管

理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所外ニ退出セシムヘシ
第五十條 前條ニ依リ投票所外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ
投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票所閉鎖後ハ此ノ限ニ在ラス

第六章 開票及開票所

第五十一條 開票所ハ郡市役所又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ開票管理者ノ
指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第五十二條 開票管理者ハ豫メ開票所ヲ告示スヘシ

第五十三條 地方長官ハ各開票區内ニ於ケル選舉人中ヨリ三名以上七名

以下ノ開票立會人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ但シ市ニ於テハ投票
立會人ヲ以テ開票立會人トス

開票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第五十四條 開票管理者ハ郡ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日、市

ニ於テハ投票ノ翌日開票立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投
票人ノ總數トヲ計算スヘシ

第五十五條 前條ノ計算終リタルトキハ開票管理者ハ先ツ第三十九條第
二項及第四項ノ投票ヲ調査シ開票立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ

決定スヘシ

開票管理者ハ各投票所ノ投票ヲ混同シ開票立會人ト共ニ投票ヲ點檢ス
ヘシ

第五十六條 選舉人ハ其ノ開票所ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 投票ノ效力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ開票管理者之ヲ決定
スヘシ

第五十八條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ

二 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、
住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十九條 投票ハ有效無効ヲ區別シ議員ノ任期間開票管理者ニ於テ之
ヲ保存スヘシ

第六十條 開票管理者ハ開票録ヲ作り開票ニ關スル顛末ヲ記載シ開票
立會人ト共ニ署名シ投票録ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第六十一條 投票ノ點檢終リタルトキハ開票管理者ハ直ニ其ノ結果ヲ選舉長ニ報告スヘシ

第六十二條 第四十四條ノ規定ハ但書ヲ除キ開票ニ之ヲ準用ス

第六十三條 開票所ノ取締ニ付テハ第五章ノ規定ヲ準用ス

第七章 選舉會

第六十四條 選舉會ハ選舉長ノ指定シタル場所及日時ニ於テ之ヲ開キ第六十一條ノ報告書ヲ調査ス

第六十五條 選舉長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ
選舉ノ一部無効トナリ更ニ選舉ヲ行ヒタル場合ニ於テ第六十一條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉長ハ選舉會ヲ開キ他ノ開票管理者ノ報告書ト共ニ更ニ之ヲ調査スヘシ

第六十六條 選舉長ハ各選舉區内ノ選舉人中ヨリ三名以上七名以下ノ選舉立會人ヲ選任シ選舉會開會ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉會ノ當日選舉會ニ參會セシムヘシ

第六十七條 選舉長ハ選舉錄ヲ作り選舉會ニ關スル顛末ヲ記載シ選舉立會人ト共ニ署名シ第六十一條ノ報告書ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第六十八條 選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 選舉會場ノ取締ニ付テハ第五章ノ規定ヲ準用ス

第八章 當選人

第七十條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選舉區内ノ議員定數ヲ以テ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ當選人ニシテ當選證書付與前ニ於テ其ノ當選ヲ辭シ若ハ死亡シタルトキ又ハ當選證書付與ノ前後ヲ問ハス選舉ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラレタル結果當選無効トナリタルトキ又ハ被選舉權ヲ有セサル爲當選無効トナリタルトキハ前項ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラザリシ者ノ中ニ就キ得票ノ順位ニ依リ之ヲ補充ス

前項ノ場合ヲ除クノ外選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ結果ニ依リ必要ナルトキハ本條ノ例ニ依リ更ニ當選人ヲ定ム

第七章ノ規定ハ前二項ノ場合ニ於テモ亦之ヲ適用ス

本條ニ依リ當選人ヲ定ムルニ當リ得票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤シテ其ノ順位ヲ定ム

第七十一條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ之ヲ當選人ニ告知スヘシ

第七十二條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ當選ヲ承諾スルコトヲ得ス

第七十三條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第七十四條 當選人ナキトキハ地方長官ハ選舉ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ告示シ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

當選人議員ノ定數ニ達セサルトキハ地方長官ハ前項ノ例ニ依リ其ノ不足ノ員數ニ對シ選舉ヲ行ハシムヘシ

第七十條第二項及第三項ノ場合ニ於テ當選人ナキトキ亦前二項ニ同シ

第八十條及第八十二條ノ出訴期間ハ本條ノ選舉ヲ行フコトヲ得ス其ノ出訴アリタルトキ裁判確定スルニ至ル迄ノ間亦同シ

第七十五條 當選人當選ヲ承諾シタルトキハ地方長官ハ直ニ當選證書ヲ付與シ其ノ氏名ヲ管内ニ告示シ且之ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

第七十六條 選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ判決ニ依リ選舉若ハ當選無効トナリタルトキ又ハ當選證書ヲ付與シタル後選舉ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラレタル結果當選無効トナリタルトキハ地方長官ハ其ノ當選證書ヲ取消シ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第九章 議員ノ任期及補闕選舉

第七十七條 議員ノ任期ハ總選舉ノ期日ヨリ四箇年トス但シ議會開會中ニ任期終ルモ閉會ニ至ル迄在任ス

第七十八條 選舉ノ日ヨリ一箇年以内ニ議員ノ闕員ヲ生シタルトキハ第七十條ノ例ニ依ル

前項ノ場合ニ於テ當選人ナキトキ又ハ選舉ノ日ヨリ一箇年以後ニ議員ノ闕員ヲ生シタルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ命ニ依リ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

前項ノ補闕選舉ノ期日ハ地方長官豫メ之ヲ告示スヘシ

第七十九條 補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第十章 選舉訴訟及當選訴訟

第八十條 選舉ノ效力ニ關シ異議アル選舉人ハ選舉長ヲ被告トシ選舉ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十一條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ當選ノ結果ニ異動ヲ及ホスノ虞アル場合ニ限り裁判所ハ其ノ選舉ノ全部若ハ一部ノ無効ヲ判決スヘシ

當選訴訟ニ於テモ其ノ選舉前項ノ場合ニ該當スルトキハ裁判所ハ其ノ全部若ハ一部ノ無効ヲ判決スヘシ

第八十二條 當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被告トシ第七十五條ノ氏名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但シ第七十條第一項但書ニ定メタル得票ニ達シタリトノ理由ニ由リ出訴スル場合ニ於テハ選舉長ヲ被告トシ第七十四條ノ告示ノ日ヨリ三十日以内ニ出訴スヘシ

前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十三條 裁判所ハ選舉訴訟若ハ當選訴訟ヲ裁判スルニ當リ檢事ヲシ

テ口頭辯論ニ立會ハシムヘシ

第八十四條 裁判所ニ於テ選舉訴訟若ハ當選訴訟ヲ判決シタルトキハ其ノ判決書ノ謄本ヲ内務大臣ニ送付スヘシ若帝國議會開會中ナルトキハ併セテ之ヲ衆議院議長ニ送付スヘシ

第八十五條 原告人ハ訴狀ヲ提出スルト同時ニ保證金トシテ三百圓又ハ之ニ相當スル額面ノ公債證書ヲ供託スヘシ
原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用ヲ完納セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充當シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴ス

第十一章 罰則

第八十六條 詐偽ノ方法ヲ以テ選舉人名簿ニ登録セラレタル者又ハ第三十四條第二項ノ場合ニ於テ虛偽ノ宣言ヲ爲シタル者ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 選舉ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢、物品、手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申

込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者
 竝供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者
 二 選舉ニ關シ酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗
 應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ選舉會場、開票所若ハ投
 票所ニ往復スル爲船車馬ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又
 ハ旅費若ハ休泊料ノ類ヲ代辨シ及其ノ代辨ヲ受ケタル者竝此等ノ
 約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者
 三 選舉ニ關シ選舉人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市
 町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用
 シ選舉人ヲ誘導シタル者及其ノ誘導ニ應シタル者
 前項ノ場合ニ於テ其ノ收受シタル物件ハ之ヲ沒收シ既ニ費用シタルモ
 ノハ其ノ價ヲ追徵ス
 第八十八條 左ノ各號ニ該當スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ
 五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 一 選舉ニ關シ選舉人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者
 二 選舉人ニ對シ往來ノ便ヲ妨ケ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ選舉權ノ行使
 ヲ妨害シ若ハ投票ヲ爲サシメタル者

三 選舉ニ關シ選舉人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市
 町村等ニ對スル用水、小作、債權其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉
 人ヲ威逼シタル者

第八十九條 選舉事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人及監視者選舉人ノ
 投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ表示シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁
 錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ表示シタル事實虛僞ナ
 ルトキ亦同シ

第九十條 投票所又ハ開票所ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選舉人ノ投票
 ニ關涉シ又ハ被選舉人ノ氏名ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者ハ一月以
 上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 法令ノ規定ニ依ラスシテ投票函ヲ開キ又ハ投票函中ノ投票ヲ取出シタ
 ル者ノ罰亦前項ニ同シ

第九十一條 投票管理者、開票管理者、選舉長、立會人若ハ選舉監視者
 ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選舉會場、開票所若ハ投票所ヲ騷擾シ又ハ投票、投
 票函其ノ他關係書類ヲ抑留、毀壞、奪取シタル者ハ四月以上四年以下
 ノ輕禁錮ニ處ス
 多衆ヲ嘯聚シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ輕禁獄ニ處ス其ノ情ヲ知テ嘯

聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ一月以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十二條 選舉人、議員候補者若ハ選舉運動者ヲ脅迫シ又ハ選舉會場、開票所、投票所ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ抑留、毀壞、奪取スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者第九十三條ノ物件ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 選舉人、議員候補者及選舉運動者ニシテ選舉ニ關シ銃砲、槍戟、刀劍、竹槍、棍棒其ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ物件ヲ携帶シタル者ハ二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
警察官吏又ハ憲兵ハ必要ト認ムル場合ニ於テ前項ノ物件ヲ領置スルコトヲ得

第九十四條 前條記載ノ物件ヲ携帶シテ選舉會場、開票所若ハ投票所ニ入リタル者ハ前條ノ例ニ依リ一等ヲ加フ

第九十五條 選舉ニ關シ氣勢ヲ張ルノ目的ヲ以テ多衆集合シ若ハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ煙火、篝火、松明ノ類ヲ用非若ハ鐘鼓、法螺、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用ウル等ノ所爲ヲ爲シ警察官吏ノ制

止ヲ受クルモ仍其ノ命ニ從ハサル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條 第八十九條乃至第九十五條ノ所爲ヲ爲サシムルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス人ヲ教唆シタル者ハ其ノ各條ニ依リ處斷ス但シ新聞紙、雜誌ニ在リテハ仍其ノ署名シタル編輯人ヲ處斷ス

第九十七條 當選ヲ妨クルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス議員候補者ニ關シ虛偽ノ事項ヲ公ニシタル者ハ六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス新聞紙、雜誌ニ在リテハ前條但書ノ例ニ依ル

第九十八條 選舉人タルコトヲ得サル者ニシテ投票ヲ爲シタル者及氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十九條 立會人正當ノ事故ナクシテ本法ニ定メタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百條 第九十二條第二項第九十三條及第九十四條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其ノ携帶シタル物件ヲ沒收ス

第一百一條 當選人其ノ選舉ニ關シ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第一百二條 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ裁判所ノ宣告ヲ以テ刑期後仍二年以上八年以下選舉人及被選舉人タルコトヲ禁ス

第一百三條 本法ニ依リ處罰スヘキ犯罪ハ六箇月ヲ以テ時効ニ罹ル

第十一章 補則

第一百四條 選舉ニ關スル費用ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百五條 選舉ニ關スル訴訟ニ付テハ裁判所ハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第一百六條 町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ掌ル

島司ヲ置ケル島嶼ニ於テハ本法ニ規定シタル郡長ノ職務ハ島司之ヲ掌リ其ノ島司ナキモノニ於テハ郡長ニ準スヘキ者之ヲ掌ル

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ本法中市トアルハ區、市長トアルハ區長、市役所トアルハ區役所ニ該當ス

第一百七條 立會人指定ノ時刻ニ至リ參會セサルトキ又ハ參會シタルモ中途ヨリ定數ヲ缺キタルトキハ投票管理者、開票管理者、選舉長ハ臨時ニ選舉人ノ中ヨリ立會人ヲ選任スヘシ

第一百八條 選舉人名簿ニ關スル訴訟、選舉訴訟及當選訴訟ニ付テハ本法ニ規定シタルモノヲ除クノ外總テ民事訴訟ノ例ニ依ル

第一百九條 本法ニ於ケル直接國稅ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百十條 北海道及沖繩縣ニ於テ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十二章 附則

第一百十一條 本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス但シ北海道札幌區、函館區、小樽區ヲ除ク沖繩縣ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ施行ノ期日ヲ定ム

(明治三十六年六月勅令第五五號ヲ以テ北海道ノ札幌區函館區小樽區以外ノ地ニ衆議院議員選舉法ヲ次ノ總選舉(明治三十七年三月一日)ヨリ施行セラレ)

(明治四十五年三月勅令第五十八號ヲ以テ沖繩縣ニ明治四十五年三月二十九日ヨリ施行セラレ)

第一百十二條 本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付必要ナル選舉人名簿ノ調製ニ限リ第十八條乃至第二十條第二十四條第二十六條第二十七條ノ期日及期間ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ選舉人名簿ハ次年ノ選舉人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

別表 (明治三十五年法律第三十八號及第三十九號ヲ以テ改正ヲ加フ)

廣島縣	廣島市	尾道市	山口縣	下關市	郡部	和歌山縣	和歌山市	郡部	德島縣	德島市	郡部	香川縣	高松市	丸龜市	郡部	
愛媛縣	松山市	郡部	高知縣	高知市	郡部	福岡縣	福岡市	久留米市	門司市	小倉市	郡部	大分縣	佐賀市	佐賀市	郡部	
熊本市	郡部	宮崎縣	鹿兒島縣	鹿兒島市	郡部	大島	北海道廳	札幌區	函館區	小樽區	小樽區	札幌、小樽、岩内、增毛、宗谷、上川、空知、室蘭、浦河、各支廳管内	函館、松前、檜山、壽都各支廳管内	根室、釧路、河西、網走各支廳管内	網走各支廳管内	網走各支廳管内
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人

(根室支廳管内千島ニ屬スル諸郡ヲ除ク)

那覇區 首里區 中頭郡 國頭郡

二人

本表ハ選舉區ノ人口ニ増減ヲ生スルモ少クトモ十箇年間ハ之ヲ更正セス

○衆議院議員選舉法施行令(明治三十四年十月勅令第百八十六號○明治四十四年五月勅令第百三十號ヲ以テ改正)

- 第一條 衆議院議員選舉法第二條ニ依リ市町村ニ於テ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設クルコトヲ要スルトキハ地方長官之ヲ定メ管内ニ告示スヘシ
- 第二條 二箇以上ノ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル
 - 一 選舉人名簿ハ每投票區各別ニ之ヲ調製スヘシ
 - 二 各投票區ニ於ケル投票管理者ハ市ニ在リテハ地方長官、町村ニ在リテハ郡長ニ於テ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ指名ス此ノ場合ニ於テハ投票管理者ノ内一名ハ市町村長、市町村長故障アルトキハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ要ス
 - 三 市町村長ハ選舉前選舉人名簿ヲ各投票管理者ニ送付スヘシ
 - 四 投票ヲ終リタルトキハ市ノ投票管理者ハ一名又ハ數名ノ投票立會人ト共ニ遲滯ナク投票函、投票録及選舉人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘシ

五 市ノ開票所ニ於テハ投票函ノ總テ到達スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

第三條 數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル
一 投票管理者ハ郡長ニ於テ關係町村長、町村長故障アルトキハ其ノ職務ヲ行フ者ノ中ニ就キ之ヲ指名ス

二 町村長ハ選舉前選舉人名簿ヲ投票管理者ニ送付スヘシ

第四條 選舉人ノ年齢ハ選舉人名簿調製ノ期日ニ依リ被選舉人ノ年齢ハ選舉ノ期日ニ依リ之ヲ算定ス

第五條 郡市町村ノ境界變更アリタル爲選舉人名簿ニ異同ヲ生シタルトキハ 郡市長ニ在リテハ其ノ管理ニ屬スル選舉人名簿中異動ニ係ル部分ヲ新ニ屬シタル郡市ノ郡市長ニ送付シ 町村長ニ在リテハ其ノ管理ニ屬スル選舉人名簿中異動ニ係ル部分ヲ新ニ屬シタル町村ノ町村長ニ送付シ同時ニ其ノ旨ヲ郡長ニ報告スヘシ

町村長ニ於テ選舉人名簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ郡長ニ報告スヘシ

市町村ノ廢置分合アリタル爲選舉人名簿ノ引繼ヲ要スルトキハ本條ノ例ニ依ル

第六條 前條ニ依リ郡長ニ於テ市長ヨリ選舉人名簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ副本ヲ調製シ關係町村長ニ送付スヘシ

第七條 選舉人名簿縦覽ノ場所ハ郡長及市町村長ニ於テ縦覽期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ告示スヘシ

第八條 選舉人名簿其ノ他選舉ニ關スル書類ハ使用ノ時期ヲ經過スルモ 選舉若ハ當選ノ效力確定セサル間ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス

市町村ニ於テ二箇以上ノ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ投票管理者ノ保存スヘキ書類ハ市町村長ニ於テ前條ノ例ニ依リ之ヲ保存スルコトヲ要ス

第九條 郡市長ニ於テ投票立會人ヲ選任シタルトキハ 同時ニ其ノ住所氏名ヲ投票管理者ニ通知スヘシ

第十條 投票管理者ニ於テ必要アリト認ムルトキハ 投票所入場券及到着番號札ヲ選舉人ニ交付スルコトヲ得

第十一條 投票記載ノ場所ハ選舉人ヲシテ 他ノ選舉人ノ投票ヲ視ヒ又ハ 投票ノ交換其ノ他不正ノ手段ヲ用ウルコト能ハサラシムル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第十二條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ各別ニ鎖鑰ヲ設クヘシ

第十三條 投票管理者ハ投票ヲ爲サシムルニ先チ投票所ニ參集シタル 選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虚ナルコトヲ示シタル後内蓋ヲ鎖スヘシ

第十四條 投票用紙ハ投票管理者及投票立會人ノ 面前ニ於テ 選舉人ヲシテ其ノ住所氏名ヲ自稱セシメ選舉人名簿ニ對照シ且ツ投票簿ニ捺印セシメタル後之ヲ交付スヘシ

第十五條 選舉人誤テ投票ノ用紙又ハ封筒ヲ汚損シタルトキハ其ノ引換ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 投票ハ投票管理者及投票立會人ノ 面前ニ於テ選舉人自ラ之ヲ投函スヘシ

第十七條 投票ヲ爲サトスル選舉人ヲシテ本人ナル旨ノ宣言ヲ爲サシムル 必要アルトキハ投票管理者ハ投票立會人ノ 面前ニ於テ之ヲ宣言セシメ 投票所ノ事務ニ從事スル者ヲシテ之ヲ筆記セシメ選舉人ニ讀聞カセ選舉人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

前項ノ宣言書ハ之ヲ投票録ニ添附スヘシ

第十八條 選舉人ニシテ投票前投票所外ニ退出シ又ハ退出ヲ命セラレタルトキハ 投票管理者ハ投票用紙ヲ取上ケ其ノ旨ヲ投票簿ニ記入スヘシ

第十九條 投票所外ニ退出セシメラレタル選舉人ニシテ投票ヲ爲サトスル者アルトキハ投票管理者ハ投票所ノ入口ヲ鎖スニ先チ入場ヲ許スヘシ

- 第二十條 投票ヲ終リタルトキハ 投票管理者ハ 投票函ノ内蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シ其ノ内蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スヘキ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ投票管理者之ヲ保管スヘシ
- 第二十一條 衆議院議員選舉法第四十四條ニ依リ選舉長ニ於テ更ニ投票期日ヲ定メタルトキハ 直ニ之ヲ郡市長ニ通知スヘシ
- 郡市長ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ更ニ衆議院議員選舉法第三十二條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第二十二條 地方長官ニ於テ開票立會人ヲ選任シタルトキハ同時ニ其ノ住所氏名ヲ開票管理者ニ通知スヘシ
- 第二十三條 投票ヲ點檢スルトキハ開票管理者又ハ選舉事務ニ從事スル者ニ於テ每票記載ノ氏名ヲ朗讀シ選舉事務ニ從事スル者二名ヲシテ各別ニ同一被選舉人ノ得票ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ
- 第二十四條 投票ノ點檢ヲ終リタルトキハ開票管理者ハ各被選舉人ノ得票數ヲ朗讀スヘシ
- 第二十五條 開票管理者ハ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效ヲ區別シ開票立會人ト共ニ封印ノ上之ヲ保存スヘシ
- 不受理ノ決定アリタル投票ハ其ノ封筒ト共ニ前項ノ例ニ依リ之ヲ保存スヘシ
- 第二十六條 開票管理者衆議院議員選舉法第六十一條ノ報告ヲ爲ストキハ開票錄ノ謄本ヲ添附シ併セテ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ報告スヘシ
- 前項ノ報告ヲ爲シタルトキハ開票管理者ハ各投票管理者ヨリ送附シタル選舉人名簿ヲ關係町村長ニ返付スヘシ
- 第二十七條 選舉長ニ於テ開票管理者ノ報告書ヲ調査スルトキハ每開票區得票者ノ氏名及其ノ得票數ヲ朗讀シ終ニ各得票者ノ得票總數ヲ朗讀スヘシ

- 第二十八條 衆議院議員選舉法第六十二條ニ依リ選舉長ニ於テ開票期日ヲ定メタルトキハ地方長官ハ更ニ同法第五十三條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第二十九條 選舉人名簿、投票簿、投票ノ用紙及封筒並投票函ノ調製ニ要スル費用ハ府縣費及北海道地方費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
- 第三十條 選舉長、開票管理者又ハ投票管理者ニ於テ選舉事務ノ爲要スル費用及選舉會場、開票所又ハ投票所ニ要スル費用ハ當該行政廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
- 第三十一條 數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ町村費ヲ以テ支辨スヘキ費用ハ之ヲ各町村ニ平分スヘシ
- 第三十二條 投票立會人、開票立會人及選舉立會人ニハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ職務ノ爲要スル費用ヲ給スルコトヲ得
- 前項ノ費用ハ府縣費及北海道地方費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
- 第三十三條 衆議院議員選舉法ニ於ケル直接國稅ノ種類左ノ如シ
 - 一 地租
 - 二 所得稅 所得稅法第三條第一項第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク
 - 三 營業稅
 - 四 賣藥營業稅(明治四十四年追加)
- 第三十四條 衆議院議員選舉法第一條ノ別表ニ於テ獨立ノ選舉區ト爲シタルモノヲ除クノ外市ハ從前屬シタル選舉區ニ包含スルモノトス
- 第三十五條 郡市ノ區域ニ屬セサル島嶼ニ於テハ開票區ハ島ノ區域ニ依ル
- 第三十六條 開票管理者、投票管理者及其ノ代理者故障アルトキハ上級官廳ハ臨時ニ官吏又ハ吏員ヲシテ其ノ事務ヲ管掌セシムルコトヲ得